

文部科学省 教員の養成・採用・研修の一体的改革事業

少数職種における効果的な研修の 推進に関する調査報告書

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部

石川 拓次・川又 俊則 編著

2019

目 次

はじめに	1
1 章 研究概要	2
2 章 少人数職種の研修に対する意識について	3
3 章 ヒアリング調査分析	42
4 章 e-learning 教材の作成	47
5 章 研修情報	50
おわりに	51

はじめに

川又俊則

三重県は東西南北に広い県である。教員研修も「ネット DE 研修」というインターネットを活用した e ラーニングによる研修を 2007 年度より取り入れ、すでに 2017 年度末時点で、およそ、20 分野 250 講座ほどが整っていた。採用前研修でもそのいくつかを視聴しレポートにまとめるなどの課題で活用している。採用後も、自ら関心ある講座を視聴し学べる形になっている。

三重県教育委員会ばかりではなく津市、四日市市など都市部の教育委員会には、養護教諭・栄養教諭などの少数職種（以下、少数職種者）においても指導主事が配置され、教職員に対する研修も丁寧に実施している。県主催の研修でもベテランを配置した個別対応の初年次研修を実施し、他県に引けを取らない体制と言えよう。

養護教諭養成校の鈴鹿大学、栄養教諭養成校の鈴鹿大学短期大学部では、2009 年度より養護教諭・栄養教諭らの教員免許状更新講習を実施し、毎回のアンケートでも高評価をいただきながら、毎年度、研修内容を改善してきた。そして、2017 年度、現職の若手少数職種者ヒアリングを鈴鹿大学で実施した。このなかで、勤務 10 年未満の栄養教諭、養護教諭現職者を OG 訪問した。現職研修に満足しているものの、養成校での学びと教育現場でのギャップをある程度認識し、都市部と比べ過疎地勤務者は参加型研修に行きにくい意識を持っている現状が見られた。一人職である養護教諭や複数校を担当している栄養教諭は、e ラーニングや県主催の全体研修、自主研修などに参加しているが、より多くの研修機会を求めていることもわかった。

また、これらを背景に、養成校側として卒業生をはじめとする現職者対象に実施してきた研修経験を活かし、一般教諭と比べて困難さも多い、「少数職種における採用・研修」に貢献する研究をしたいと思った。そして、「少数職種」に特化した初任者や若手教員の段階で、必要な研修を研究開発するつもりである。

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」（中教審第 184 号、2015 年）は、現在の学校教育の根幹を示す重要なものである。教員の資質能力向上は、養成・採用・研修が密接に連携できることで一層の効果が期待できよう。

本研究は、「養成・採用・研修」のそれぞれの段階での密接な連携を目指す、とくにこれまで困難さを感じてきた「少数職種」に対する研修を提案することで、よりよい教育が展開されることを期待したい。

1章 研究概要

川又俊則

養護教諭・栄養教諭などの少数職種（以下、少数職種者）は、一人職種であり、複数校を担当することもあるなど、一般教諭と比べ、研修の機会・環境が厳しいのは周知のとおりである。本研究は、少数職種者における「養成・採用・研修」の課題の一つについて、養成校教育内容と現職勤務先での職務内容でギャップがあることを認識し、それを改善する研修について調査研究を行うことを目的とする。

養護教諭養成を50年、栄養教諭養成も12年続けてきた鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部（以下、本学）は、教員免許状更新講習などを通じて現職者に研修を提供し、個別の様々な研修でも所属教員が講師を担当し続けている。

他にも、「みえ養護教諭実践研究会」（2015年～）で近隣に勤める現職養護教諭と養成校教員が先駆的事例の検証を行った。『健康を科学する実践研究』（大学教育出版、2018年）という養護教諭の実践研究に関するテキストを刊行し、第61回東海学校保健学会年次学術大会（2018年）を主催するなど、現職者とのつながりも深い。

本報告書でまとめた本研究の内容は以下の通りである。

質問紙調査（教員免許状更新講習者、初年次教員研修者、関西・東海現職者）により、少数職種者の研修ニーズを再確認した。ヒアリング（遠隔地での研修の経験者など）により、質問紙調査で得られた結果を分析した。これらを踏まえ、「eラーニング教材（研修ビデオ）」を開発した。これは、既存の「ネットDE研修」をより効果的に活用するために、本学で教員免許状更新講習を担当している各分野で現職者の状況に通じ専門性の高い教授陣によるコンパクトにまとめた、独自の新たなeラーニング教材である。今後、初任者・若手教員が積極的に自ら学ぶeラーニング教育として提案する。本報告書では、養護教諭専門・栄養教諭専門・教職それぞれ1本の概要を示した。現職者視聴による検証を行い、次年度以降の改訂版作成、また、新たな教材作成を継続する。

本報告書は、研究全体の概要あるいはその一部だが、報告書執筆で完成ということではない。教員を輩出し続ける養成校として「養成・採用・研修」の一体化に尽力したい。

2章は、関西・東海地方の養護教諭・栄養教諭を対象に実施した質問紙調査の結果を収録した。現職者たちの現在の研修状況を掌握し、三重県および他県の現況、他職種研修などの実態を調べる。彼女・彼らの抱えている課題を浮き彫りにし、よりより養成・採用・研修のあり方を提起した。

続く3章は、ヒアリング調査の結果から、現職者たちが、具体的な研修で得られたもの、得たいものなどを示す。

これらの結果を受ける形で、4章では、本学教員によるeラーニング（教材ビデオ）の概要を3例示す。遠隔地などにおいて、今後もインターネットを通じた動画に可能性があると思われる。このさらなる活用を示す。

5章では、2・3章で得た学会・研究会、他職種の研修で評価を得た事例を示しつつ、情報提供や、情報収集により、現職者たちの新たな研修スタイル提案する。

これらを通じ、とくに初任者段階での効果的な研修の構築を目指している。

2章 少人数職種の研修に対する意識について

石川 拓次

1. はじめに

中央教育審議会（以下、中教審）が2015年に出した「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」¹⁾は、現在の学校教育の根幹を示す重要なものである。この中で、教員の資質能力の向上は、養成・採用・研修が密接に連携できていることで、一層の効果が期待できることが示されている。

養護教諭および栄養教諭は学校において多くの場合1校に1名の配置であり、複数校を担当することもあるなど、一般教員と比較して、研修の機会や環境が厳しいことは周知の事実である。筆者ら所属している教育機関が所在するA県は、東西南北に広い県であり、県が主催する研修等で県庁所在地にある研修センターまで出てくるには多くの時間を要する。川又は、A県の現職若手の養護教諭および栄養教諭を対象にヒアリング調査を実施した。その中で、現在の研修には満足しているものの、養成校での学びと教育現場のギャップを少なからず認識し、都市部に比べて過疎地域勤務者は参加型の研修に行きづらい意識を持っている現状もみられた。一人職である養護教諭や複数校を担当している栄養教諭はeラーニングや県主催の全体研修会、自主研修などに参加しているが、より多くの研修機会を求めていることも示された。上記のような状況はA県にとどまらず地方の養護教諭や栄養教諭には共通する認識であると考えられる。

そこで今回、東海地域および関西地域の複数の県の養護教諭および栄養教諭を対象として、「教職員研修」についての質問紙調査を実施し、それぞれの地域の特徴を把握するとともに、属性の区分による比較検討をすることにより、少数職種における養成・採用・研修の一体化について考察を加えることを目的に本研究を行った。

2. 目的

本研究の目的は、東海地区および関西地区の養護教諭および栄養教諭の少数職種における研修についての実態を調査することにより、それぞれの地域の特徴を把握するとともに、属性の区分による比較検討をすることにより、少数職種における養成・採用・研修の一体化について考察を加えることである。

3. 方法

（1）対象および調査方法配布数

対象は、三重県、愛知県、静岡県、岐阜県、奈良県および和歌山県の学校に勤務する養護教諭および栄養教諭とした。対象に郵送法にて自記式の質問紙調査を配布し、回収した。配布数は706件であり、回収数（回収率）は、324件（45.9%）であった。被験者に対して、文書による説明を行い、回答を記入し、郵送することで調査に同意したものとした。調査期間は、2018(平成30)年11月1日から2019(平成31)年2月10日であった。

（2）調査項目

調査項目は、以下の通りである。それぞれの項目について4～6件法の単数回答、複数回答および自由記述にて回答を求めた。

- ・ 職能開発のためこれまでに実践したもの
- ・ これまでに参加した研修のテーマおよび最も有益であった研修テーマ

- ・教育委員会が実施している現職研修の職能開発に対する役立ち具合
- ・教員免許状更新講習の職能開発に対する役立ち具合
- ・これまで参加した研修のうち、後輩たちにぜひ紹介したい研修の有無
- ・これまで参加した研修についての感想
- ・今後参加したい研修のテーマおよび一番参加したい研修テーマ
- ・養護教諭・栄養教諭の研修の意識
- ・少人数職種の研修への意見および自身の行動について
- ・属性（年齢区分、経験年数区分、現勤務校種、勤務所在地）

（３）統計処理

各設問におけるクロス集計においては、以下の群分けを用いて行った。

- ・年齢区分（20 歳代・30 歳代・40 歳代・50 歳以上）
- ・現勤務校種（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）
- ・研修会および学会等での発表経験
- ・職種種別（養護教諭・栄養教諭）

統計処理は、 χ^2 検定、もしくはノンパラメトリック検定を行った。有意水準は5%未満とした。

（４）倫理的配慮

研究協力者に対し、質問紙を送付したときに、依頼文書において、本調査の目的等の説明を行った。無記名自記式において、回答を記入し返送したことをもって、調査同意を得たとすると明記した。データにおいては、集団での集計のみとし、個人にかかる内容についてはすべて非公開とした。

4. 結果

（１）属性

1) 性別

対象者の性別の結果を表1に示した。女性318件（98.1%）、男性4件（1.2%）、未回答2件（0.6%）であった。

		女性	男性	未回答	総計
1	性別	318	4	2	324
		98.1%	1.2%	0.6%	100.0%

2) 年齢区分

対象者の年齢区分の結果を表2に示した。20歳代86件（26.5%）、30歳代69件（21.3%）、40歳代90件（27.8%）、50歳代66件（20.4%）、60歳代10件（3.1%）、答えたくない3件（0.9%）、未回答0件（0.0%）であった。

表2. 年齢区分

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	答えたくない	未回答	総計
2	年齢区分	86	69	90	66	10	3	0	324
		26.5%	21.3%	27.8%	20.4%	3.1%	0.9%	0.0%	100.0%

3) 経験年数

対象者の経験年数区分の結果を表2に示した。3年未満 39 件 (12.0%)、3年～5年 39 件 (12.0%)、6年～10年 55 件 (17.0%)、11年～20年 82 件 (25.3%)、21年～30年 65 件 (20.1%)、30年以上 42 件 (13.0%)、答えたくない 2 件 (0.6%)、未回答 0 件 (0.0%) であった。

表3. 経験年数

		3年未満	3年～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	30年以上	答えたくない	未回答	総計
3	経験年数	39 12.0%	39 12.0%	55 17.0%	82 25.3%	65 20.1%	42 13.0%	2 0.6%	0 0.0%	324 100.0%

4) 現勤務校種

対象者の現勤務校種の結果を表4に示した。小学校 94 件 (29.0%)、中学校 53 件 (16.4%)、高等学校 83 件 (25.6%)、特別支援学校 93 件 (28.7%)、未回答 1 (0.3%) 件であった。

		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	未回答	総計
4	現勤務校種	94 29.0%	53 16.4%	83 25.6%	93 28.7%	1 0.3%	324 100.0%

5) 勤務地

対象者の現勤務校種の結果を表5に示した。和歌山県 11 件 (3.4%)、奈良県 11 件 (3.4%)、愛知県(名古屋市以外) 62 件 (19.1%)、三重県 140 件 (43.2%)、愛知県名古屋市 61 件 (18.8%)、岐阜県 18 件 (5.6%)、静岡県 20 件 (6.2%)、その他 0 件 (0.0%)、未回答 1 件 (0.3%) であった。

表5. 勤務地

		和歌山県	奈良県	愛知県 (名古屋市以外)	三重県	愛知県 名古屋市	岐阜県	静岡県	その他	未回答	総計
5	勤務地	11 3.4%	11 3.4%	62 19.1%	140 43.2%	61 18.8%	18 5.6%	20 6.2%	0 0.0%	1 0.3%	324 100.0%

6) 職務

対象者の現勤務校種の結果を表6に示した。養護教諭 278 件 (85.8%)、栄養教諭 46 件 (14.2%) であった。

表6. 職務

		養護教諭	栄養教諭	総計
6	職務	278 85.8%	46 14.2%	324 100.0%

(2) 単純集計

1) 研修参加・発表経験について

研修参加・発表経験についての結果を表7に示した。県教育委員会主催の研修・講習会に参加した 283 件 (87.3%)、県教育委員会主催の研修・講習会で発表した 74 件 (22.8%)、市町教育委員会主催の研修・講習会に参加した 217 件 (67.0%)、市町教育委員会主催の研修・講習会で発表した 56 件 (17.3%)、教職員組合主催の研修・講習会に参加した 153 件

(47.2%)、教職員組合主催の研修・講習会で発表した 50 件 (15.4%)、教員仲間の研修会 (事例検討等を含む) に参加した 233 件 (71.9%)、教員仲間の研修会 (事例検討等を含む) で発表した 91 件 (28.1%)、学会 (日本学校保健学会など) に参加した 112 件 (34.6%)、学会 (日本学校保健学会など) で発表した 22 件 (6.8%)、教育・健康関連の専門書、論文を読んだ 213 件 (65.7%)、教育・健康関連の専門書、論文を書き発表した 12 件 (3.7%)、教員免許取得校以外へ進学した 18 件 (5.6%)、認定講習を受講した 116 件 (35.8%)、教員免許状取得後に、別の教育・健康関連の資格・免許等を取得した 38 件 (11.7%)、その他 23 件 (7.1%)、そして、上記のことはしていない 2 (0.6%) であった。

表7. 研修参加・発表経験について

No.	設問	件数	割合
1	県教育委員会主催の研修・講習会に参加した	283	87.3%
2	県教育委員会主催の研修・講習会で発表した	74	22.8%
3	市町教育委員会主催の研修・講習会に参加した	217	67.0%
4	市町教育委員会主催の研修・講習会で発表した	56	17.3%
5	教職員組合主催の研修・講習会に参加した	153	47.2%
6	教職員組合主催の研修・講習会で発表した	50	15.4%
7	教員仲間の研修会(事例検討等を含む)に参加した	233	71.9%
8	教員仲間の研修会(事例検討等を含む)で発表した	91	28.1%
9	学会(日本学校保健学会など)に参加した	112	34.6%
10	学会(日本学校保健学会など)で発表した	22	6.8%
11	教育・健康関連の専門書、論文を読んだ	213	65.7%
12	教育・健康関連の専門書、論文を書き発表した	12	3.7%
13	教員免許取得校以外へ進学した	18	5.6%
14	認定講習を受講した	116	35.8%
15	教員免許状取得後に、別の教育・健康関連の資格・免許等を取得した	38	11.7%
16	その他	23	7.1%
17	上記のことはしていない	2	0.6%

2) これまでに受講した研修内容について

これまでに受講した研修内容についての結果を表 8 に示した。アレルギー 295 件 (91.0%)、救急処置 250 件 (77.2%)、性の多様性 (L G B T 含む) 224 件 (9.1%)、相談活動 222 件 (68.5%)、性教育、いのちの教育 217 件 (67.0%)、感染症 213 件 (65.7%)、学校事故 205 件 (63.3%)、保健室経営 190 件 (58.6%)、児童虐待 187 件 (57.7%)、食育 184 件 (56.8%)、衛生管理 183 件 (56.5%)、保健指導・栄養指導などの指導案 183 件 (56.5%)、生活習慣病 183 件 (56.5%)、環境衛生 178 件 (54.9%)、防災・災害対応 177 件 (54.6%)、精神障がい 171 件 (52.8%)、I C T (タブレットなど) の活用方法 95 件 (29.3%)、生産者、地域の方々とのネットワーク 45 件 (13.9%)、その他 31 件 (9.6%) であった。

さらにこれまでに受けた研修で最も有益であった研修内容としては、アレルギー 33 件 (11.2%)、救急処置 56 件 (22.4%)、性の多様性 (L G B T 含む) 8 件 (3.6%)、相談活動 22 件 (9.9%)、性教育、いのちの教育 12 件 (5.5%)、感染症 2 件 (0.9%)、学校事故 14 件 (6.8%)、保健室経営 5 件 (2.6%)、食育 11 件 (6.0%)、衛生管理 3 件 1.6%、保健指導・栄養指導などの指導案 6 件 (3.3%)、生活習慣病 1 件 0.5%、防災・災害対応 3 件 (1.7%)、精神障がい 6 件 (3.5%)、生産者、地域の方々とのネットワーク 1 件 (2.2%)、その他 7 件 (22.6%) であった。

表8. これまでに受講した研修内容について

No.	設問	研修を受けたことがある		最も有益であった	
		件数	割合	件数	割合
1	アレルギー	295	91.0%	33	11.2%
2	救急処置	250	77.2%	56	22.4%
3	性の多様性(LGBT含む)	224	69.1%	8	3.6%
4	相談活動	222	68.5%	22	9.9%
5	性教育、いのちの教育	217	67.0%	12	5.5%
6	感染症	213	65.7%	2	0.9%
7	学校事故	205	63.3%	14	6.8%
8	保健室経営	190	58.6%	5	2.6%
9	児童虐待	187	57.7%	0	0.0%
10	食育	184	56.8%	11	6.0%
11	衛生管理	183	56.5%	3	1.6%
12	保健指導・栄養指導などの指導案	183	56.5%	6	3.3%
13	生活習慣病	183	56.5%	1	0.5%
14	環境衛生	178	54.9%	0	0.0%
15	防災・災害対応	177	54.6%	3	1.7%
16	精神障がい	171	52.8%	6	3.5%
17	ICT(タブレットなど)の活用方法	95	29.3%	0	0.0%
18	生産者、地域の方々とのネットワーク	45	13.9%	1	2.2%
19	その他	31	9.6%	7	22.6%
20	とくにない	0	0.00%	-	-

3) 各研修における職能開発への有益度

教育委員会が実施している研修が自身の職能開発に有益であったかについての結果を表9に示した。常勤講師・養護助教諭・学校栄養補助員研修について、とても役立った42件(30.0%)、まあ役立った58件(41.4%)、あまり役立たなかった7件(5.0%)、まったく役立たなかった0件(0.0%)、未回答33件(23.6%)であった。

採用前研修について、とても役立った16件(16.5%)、まあ役立った34件(35.1%)、あまり役立たなかった13件(13.4%)、まったく役立たなかった3件(3.1%)、未回答31件(32.0%)であった。

インターネットを利用した研修(ネットDE研修など)について、とても役立った11件(6.3%)、まあ役立った87件(49.4%)、あまり役立たなかった53件(30.1%)、まったく役立たなかった2件(1.1%)、未回答23件(13.1%)であった。

新規採用養護教諭・栄養教諭研修について、とても役立った139件(57.0%)、まあ役立った83件(34.0%)、あまり役立たなかった11件(4.5%)、まったく役立たなかった0件(0.0%)、未回答11件(4.5%)であった。

養護教諭・栄養教諭6年次研修(5年次以上)について、とても役立った73件(41.0%)、まあ役立った83件(46.6%)、あまり役立たなかった12件(6.7%)、まったく役立たなかった0件(0.0%)、未回答10件(5.6%)であった。

中堅養護教諭・栄養教諭等資質向上研修(10年次以上)について、とても役立った63件(41.7%)、まあ役立った65件(43.0%)、あまり役立たなかった7件(4.6%)、まったく役立たなかった0件(0.0%)、未回答16件(10.6%)であった。

養護教諭職務推進研修について、とても役立った69件(33.5%)、まあ役立った109件(52.9%)、あまり役立たなかった3件(1.5%)、まったく役立たなかった0件(0.0%)、

未回答 25 件 (12.1%) であった。

学校給食栄養管理者研修・学校給食関係職員研修について、とても役立った 24 件 (22.9%)、まあ役立った 38 件 (36.2%)、あまり役立たなかった 4 件 (3.8%)、まったく役立たなかった 1 件 (1.0%)、未回答 38 件 (36.2%) であった。

市町の教育センター、教育研究所等との連携講座について、とても役立った 55 件 (29.3%)、まあ役立った 101 件 (53.7%)、あまり役立たなかった 4 件 (2.1%)、まったく役立たなかった 0 件 (0.0%)、未回答 28 件 (14.9%) であった。

教育相談ベーシック研修等について、とても役立った 48 件 (28.6%)、まあ役立った 86 件 (51.2%)、あまり役立たなかった 7 件 (4.2%)、まったく役立たなかった 0 件 (0.0%)、未回答 27 件 (16.1%) であった。

人権研修・特別支援研修等について、とても役立った 41 件 (20.4%)、まあ役立った 121 件 (60.2%)、あまり役立たなかった 12 件 (6.0%)、まったく役立たなかった 0 件 (0.0%)、未回答 27 件 (13.4%) であった。

表9. 各研修における職能開発への有益度

No.	設問	とても役立った	まあ役立った	あまり役立たなかった	まったく役立たなかった	未記入	総計
1	常勤講師・養護助教諭・学校栄養補助員研修	42	58	7	0	33	140
		30.0%	41.4%	5.0%	0.0%	23.6%	100.0%
2	採用前研修	16	34	13	3	31	97
		16.5%	35.1%	13.4%	3.1%	32.0%	100.0%
3	インターネットを利用した研修(ネットDE研修など)	11	87	53	2	23	176
		6.3%	49.4%	30.1%	1.1%	13.1%	100.0%
4	新規採用養護助教諭・栄養教諭研修	139	83	11	0	11	244
		57.0%	34.0%	4.5%	0.0%	4.5%	100.0%
5	養護教諭・栄養教諭6年次研修(5年次以上)	73	83	12	0	10	178
		41.0%	46.6%	6.7%	0.0%	5.6%	100.0%
6	中堅養護教諭・栄養教諭等資質向上研修(10年次以上)	63	65	7	0	16	151
		41.7%	43.0%	4.6%	0.0%	10.6%	100.0%
7	養護教諭職務推進研修	69	109	3	0	25	206
		33.5%	52.9%	1.5%	0.0%	12.1%	100.0%
8	学校給食栄養管理者研修・学校給食関係職員研修	24	38	4	1	38	105
		22.9%	36.2%	3.8%	1.0%	36.2%	100.0%
9	市町の教育センター、教育研究所等との連携講座	55	101	4	0	28	188
		29.3%	53.7%	2.1%	0.0%	14.9%	100.0%
10	教育相談ベーシック研修等	48	86	7	0	27	168
		28.6%	51.2%	4.2%	0.0%	16.1%	100.0%
11	人権研修・特別支援研修等	41	121	12	0	27	201
		20.4%	60.2%	6.0%	0.0%	13.4%	100.0%

4) 教員免許更新講習における職能開発への有益度

教員免許更新講習における職能開発への有益度の結果を表 10 に示した。教員免許状更新講習・必修について、とても役立った 33 件 (14.8%)、まあ役立った 103 件 (46.2%)、あまり役立たなかった 56 件 (25.1%)、まったく役立たなかった 11 件 (4.9%)、未回答 20 件 (9.0%) であった。

教員免許状更新講習・選択必修について、とても役立った 37 件 (16.7%)、まあ役立った 112 件 (50.5%)、あまり役立たなかった 41 件 (18.5%)、まったく役立たなかった 8 件 (3.6%)、未回答 24 件 (10.8%) であった。

教員免許状更新講習・選択について、とても役立った 48 件 (21.7%)、まあ役立った 105 件 (47.5%)、あまり役立たなかった 37 件 (16.7%)、まったく役立たなかった 7 件 (3.2%)、未回答 24 件 (10.9%) であった。

表10. 教員免許更新講習における職能開発への有益度

No.	設問	とても 役立った	まあ 役立った	あまり 役立たな かった	まったく 役立たな かった	未記入	総計
1	教員免許状更新講習・必修	33 14.8%	103 46.2%	56 25.1%	11 4.9%	20 9.0%	223 100.0%
2	教員免許状更新講習・選択必修	37 16.7%	112 50.5%	41 18.5%	8 3.6%	24 10.8%	222 100.0%
3	教員免許状更新講習・選択	48 21.7%	105 47.5%	37 16.7%	7 3.2%	24 10.9%	221 100.0%

5) 後輩に紹介したい講演

これまでに受けた講演で後輩に紹介したい内容があるかについての結果を表11に示した。たくさんある33件(10.2%)、まずまずある208件(64.2%)、あまりない54件(16.7%)、まったくない5件(1.9%)、未記入24件(7.4%)であった。

表11. 後輩に紹介したい講演

No.	設問	たくさん ある	まずまず ある	あまり ない	まったく ない	未記入	総計
1	後輩に紹介したい講演	33 10.2%	208 64.2%	54 16.7%	5 1.5%	24 7.4%	324 100.0%

6) 研修に参加した感想

研修に参加した感想についての結果を表12に示した。有益な情報を収集できたについて、とてもあてはまる125件(38.6%)、まああてはまる187件(57.7%)、あまりあてはまらない9件(2.8%)、まったくあてはまらない0件(0.0%)、未記入3件(0.9%)であった。

知的好奇心が刺激されたについて、とてもあてはまる102件(31.5%)、まああてはまる186件(57.4%)、あまりあてはまらない30件(9.3%)、まったくあてはまらない2件(0.6%)、未記入4件(1.2%)であった。

時間のわりに得られるものが少なかったについて、とてもあてはまる11件(3.4%)、まああてはまる76件(23.5%)、あまりあてはまらない206件(63.6%)、まったくあてはまらない28件(8.6%)、未記入3件(0.9%)であった。

人的ネットワークを構築できたについて、とてもあてはまる27件(8.3%)、まああてはまる120件(37.0%)、あまりあてはまらない154件(47.5%)、まったくあてはまらない20件(6.2%)、未記入3件(0.9%)であった。

最新情報や先進事例から触発を受けたについて、とてもあてはまる73件(22.5%)、まああてはまる202件(62.3%)、あまりあてはまらない42件(13.0%)、まったくあてはまらない4件(1.2%)、未記入3件(0.9%)であった。

日常業務から解放され、リフレッシュできたについて、とてもあてはまる54件(16.7%)、まああてはまる163件(50.3%)、あまりあてはまらない85件(26.2%)、まったくあてはまらない19件(5.9%)、未記入3件(0.9%)であった。

専門知識・技能を獲得できたについて、とてもあてはまる103件(31.8%)、まああてはまる200件(61.7%)、あまりあてはまらない17件(5.2%)、まったくあてはまらない1件(0.3%)、未記入3件(0.9%)であった。

自らの教育実践にはあまり役立たなかったについて、とてもあてはまる2件(0.6%)、まああてはまる35件(10.8%)、あまりあてはまらない210件(64.8%)、まったくあてはまらない74件(22.8%)、未記入3件(0.9%)であった。

表12. 研修に参加した感想

No.	設問	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計
1	有益な情報を収集できた	125 38.6%	187 57.7%	9 2.8%	0 0.0%	3 0.9%	324 100.0%
2	知的好奇心が刺激された	102 31.5%	186 57.4%	30 9.3%	2 0.6%	4 1.2%	324 100.0%
3	時間のわりに得られるものが少なかった	11 3.4%	76 23.5%	206 63.6%	28 8.6%	3 0.9%	324 100.0%
4	人的ネットワークを構築できた	27 8.3%	120 37.0%	154 47.5%	20 6.2%	3 0.9%	324 100.0%
5	最新情報や先進事例から触発を受けた	73 22.5%	202 62.3%	42 13.0%	4 1.2%	3 0.9%	324 100.0%
6	日常業務から解放され、リフレッシュできた	54 16.7%	163 50.3%	85 26.2%	19 5.9%	3 0.9%	324 100.0%
7	専門知識・技能を獲得できた	103 31.8%	200 61.7%	17 5.2%	1 0.3%	3 0.9%	324 100.0%
8	自らの教育実践にはあまり役立たなかった	2 0.6%	35 10.8%	210 64.8%	74 22.8%	3 0.9%	324 100.0%

7) 今後受けた研修内容について

今後受けた研修内容についてのけっかを表13に示した。救急処置 209 件 (64.5%)、アレルギー189 件 (58.3%)、相談活動 183 件 (56.5%)、保健指導・栄養指導などの指導案 181 件 (55.9%)、性教育・いのちの教育 174 件 (53.7%)、性の多様性 (L G B T 含む) 170 件 (52.5%)、学校事故 163 件 (50.3%)、保健室経営 154 件 (47.5%)、精神障がい 146 件 (45.1%)、生活習慣病 143 件 (44.1%)、感染症 142 件 (43.8%)、防災・災害対応 139 件 (42.9%)、児童虐待 127 件 (39.2%)、食育 116 件 (35.8%)、衛生管理 106 件 (32.7%)、I C T (タブレットなど) の活用方法 103 件 (31.8%)、環境衛生 77 件 (23.8%)、生産者、地域の方々とのネットワーク 55 件 (17.0%)、その他 23 件 (7.1%) であった。

さらに最も受けた研修については、救急処置 40 件 (19.1%)、アレルギー9 件 (4.8%)、相談活動 22 件 (12.0%)、保健指導・栄養指導などの指導案 18 件 (9.9%)、性教育・いのちの教育 24 件 (13.8%)、性の多様性 (L G B T 含む) 9 件 (5.3%)、学校事故 13 件 (8.0%)、保健室経営 11 件 (7.1%)、精神障がい 9 件 (6.2%)、生活習慣病 7 件 (4.9%)、感染症 2 件 (1.4%)、防災・災害対応 7 件 (5.0%)、児童虐待 6 件 (4.7%)、食育 10 件 (8.6%)、衛生管理 3 件 (2.8%)、I C T (タブレットなど) の活用方法 10 件 (9.7%)、環境衛生 0 件 (0.0%)、生産者、地域の方々とのネットワーク 5 件 (9.1%)、その他 14 件 (60.9%) であった。

表13. 今後受けたい研修内容について

No.	設問	今後受けたいテーマ		最も受けたいテーマ	
		件数	割合	件数	割合
1	救急処置	209	64.5%	40	19.1%
2	アレルギー	189	58.3%	9	4.8%
3	相談活動	183	56.5%	22	12.0%
4	保健指導・栄養指導などの指導案	181	55.9%	18	9.9%
5	性教育、いのちの教育	174	53.7%	24	13.8%
6	性の多様性(LGBT含む)	170	52.5%	9	5.3%
7	学校事故	163	50.3%	13	8.0%
8	保健室経営	154	47.5%	11	7.1%
9	精神障がい	146	45.1%	9	6.2%
10	生活習慣病	143	44.1%	7	4.9%
11	感染症	142	43.8%	2	1.4%
12	防災・災害対応	139	42.9%	7	5.0%
13	児童虐待	127	39.2%	6	4.7%
14	食育	116	35.8%	10	8.6%
15	衛生管理	106	32.7%	3	2.8%
16	ICT(タブレットなど)の活用方法	103	31.8%	10	9.7%
17	環境衛生	77	23.8%	0	0.0%
18	生産者、地域の方々とのネットワーク	55	17.0%	5	9.1%
19	その他	23	7.1%	14	60.9%
20	とくにない	3	0.9%	—	—

8) 少数職種の研修について

少数職種の研修についての意識の結果を表 14 に示した。日常の業務が忙しく、研修に参加しにくいについて、とてもあてはまる 65 件 (20.1%)、まああてはまる 161 件 (49.7%)、あまりあてはまらない 88 件 (27.2%)、まったくあてはまらない 10.0 件 (3.1%)、未記入 0 件 (0.0%) であった。

少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくいについて、とてもあてはまる 95 件 (29.3%)、まああてはまる 155 件 (47.8%)、あまりあてはまらない 68 件 (21.0%)、まったくあてはまらない 6 件 (1.9%)、未記入 0 件 (0.0%) であった。

管理職の理解があれば、様々な研修が可能であるについて、とてもあてはまる 84 件 (25.9%)、まああてはまる 153 件 (47.2%)、あまりあてはまらない 70 件 (21.6%)、まったくあてはまらない 6 件 (1.9%)、未記入 1 件 (0.3%) であった。

研修としても、もっとインターネットを活用したいについて、とてもあてはまる 27 件 (8.3%)、まああてはまる 114 件 (35.2%)、あまりあてはまらない 161 件 (49.7%)、まったくあてはまらない 22 件 (6.8%)、未記入 0 件 (0.0%) であった。

出身養成校の教員と情報交換をしているについて、とてもあてはまる 14 件 (4.3%)、まああてはまる 45 件 (13.9%)、あまりあてはまらない 101 件 (31.2%)、まったくあてはまらない 163 件 (50.3%)、未記入 1 件 (0.3%) であった。

教育委員会や教職員組合などの研修で十分であるについて、とてもあてはまる 4 件 (1.2%)、まああてはまる 92 件 (28.4%)、あまりあてはまらない 186 件 (57.4%)、まったくあてはまらない 40 件 (12.3%)、未記入 2 件 (0.6%) であった。

表14. 少人数職種研修について

No.	設問	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計
1	日常の業務が忙しく、研修に参加しにくい	65 20.1%	161 49.7%	88 27.2%	10 3.1%	0 0.0%	324 100.0%
2	少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくい	95 29.3%	155 47.8%	68 21.0%	6 1.9%	0 0.0%	324 100.0%
3	管理職の理解があれば、様々な研修が可能である	84 25.9%	153 47.2%	70 21.6%	16 4.9%	1 0.3%	324 100.0%
4	研修としても、もっとインターネットを活用したい	27 8.3%	114 35.2%	161 49.7%	22 6.8%	0 0.0%	324 100.0%
5	出身養成校の教員と情報交換をしている	14 4.3%	45 13.9%	101 31.2%	163 50.3%	1 0.3%	324 100.0%
6	教育委員会や教職員組合などの研修で十分である	4 1.2%	92 28.4%	186 57.4%	40 12.3%	2 0.6%	324 100.0%

9) 研修に関する意識について

研修についての意識についての結果を表 15 に示した。参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがある 170 件 (52.5%)、研修で得た良い情報は、校内で共有している 191 件 (59.0%)、参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しない 78 件 (24.1%)、平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しない 82 件 (25.3%)、自ら実践体験できる研修を選んで参加した 96 件 (29.6%)、新たな知識を得られる講話は好きである 301 件 (92.9%)、インターネットを活用して情報を得るようにしている 134 件 (41.4%)、専門誌、専門書から情報を得るようにしている 193 件 (59.6%)、他職種の方々が講師の研修に参加したい 105 件 (32.4%)、専門家の集まる学会に参加するのは気後れする 58 件 (17.9%)、その他 6 件 (1.9%) であった。

表15. 研修に関する意識について

No.	設問	件数	割合
1	参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがある	170	52.5%
2	研修で得た良い情報は、校内で共有している	191	59.0%
3	参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しない	78	24.1%
4	平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しない	82	25.3%
5	自ら実践体験できる研修を選んで参加した	96	29.6%
6	新たな知識を得られる講話は好きである	301	92.9%
7	インターネットを活用して情報を得るようにしている	134	41.4%
8	専門誌、専門書から情報を得るようにしている	193	59.6%
9	他職種の方々が講師の研修に参加したい	105	32.4%
10	専門家の集まる学会に参加するのは気後れする	58	17.9%
11	その他	6	1.9%

(2) 年齢区分比較

1) 研修会・学会等での発表経験の有無

年齢区分別の研修会・学会等での発表経験の有無の結果を表 16 に示した。20 歳代は、発表経験あり 15 件 (17.4%)、発表経験なし 71 件 (82.6%) であった。30 歳代は、発表経験あり 41 件 (59.4%)、発表経験なし 28 件 (40.6%) であった。40 歳代は、発表経験あり 55 件 (61.1%)、発表経験なし 35 件 (38.9%) であった。50 歳以上は、発表経験あり 52 件 (68.4%)、発表経験なし 24 件 (31.6%) であった。

表16. 講演会・研究会での発表経験

No.	群	発表経験あり	発表経験なし	総計	有意差	20歳代 30歳代	20歳代 40歳代	20歳代 50歳以上	30歳代 40歳代	30歳代 50歳以上	40歳代 50歳以上
1	20歳代	15	71	86	***	***	***	***	ns	ns	ns
		17.4%	82.6%	100.0%							
	30歳代	41	28	69							
		59.4%	40.6%	100.0%							
	40歳代	55	35	90							
		61.1%	38.9%	100.0%							
	50歳以上	52	24	76							
		68.4%	31.6%	100.0%							
	未回答	3	0	3							
		100.0%	0.0%	100.0%							
	総計	166	158	324		30歳代	40歳代	50歳代			
		51.2%	48.8%	100.0%							

2) 後輩に紹介したい講演会の有無

年齢区分別の後輩に紹介したい講演会の有無の結果を表 17 に示した。20 歳代においては、たくさんある 6 件 (7.0%)、まずまずある 56 件 (65.1%)、あまりない 14 件 (16.3%)、まったくない 3 件 (3.5%)、であった。30 歳代においては、たくさんある 9 件 (13.0%)、まずまずある 44 件 (63.8%)、あまりない 9 件 (13.0%)、まったくない 1 件 (1.4%) であった。40 歳代においては、たくさんある 8 件 (8.9%)、まずまずある 59 件 (65.6%)、あまりない 17 件 (18.9%)、まったくない 0 件 (0.0%)、であった。50 歳以上においては、たくさんある 10 件 (13.2%)、まずまずある 46 件 (60.5%)、あまりない 14 件 (18.4%)、まったくない 1 件 (1.3%) であった。

表17. 後輩に紹介したい講演会の有無

No.	群	たくさんある	まずまずある	あまりない	まったくない	未記入	総計	有意差
1	20歳代	6	56	14	3	7	86	ns
		7.0%	65.1%	16.3%	3.5%	8.1%	100.0%	
	30歳代	9	44	9	1	6	69	
		13.0%	63.8%	13.0%	1.4%	8.7%	100.0%	
	40歳代	8	59	17	0	6	90	
		8.9%	65.6%	18.9%	0.0%	6.7%	100.0%	
	50歳以上	10	46	14	1	5	76	
		13.2%	60.5%	18.4%	1.3%	6.6%	100.0%	
	未回答	0	3	0	0	0	3	
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	総計	33	208	54	5	24	324	
		10.2%	64.2%	16.7%	1.5%	7.4%	100.0%	

3) これまでに参加した研修での感想

年齢区分別のこれまでに参加した研修での感想の結果を表 18 に示した。有益な情報を収集できたについて、20 歳代は、とてもあてはまる 34 件 (39.5%)、まああてはまる 48 件 (55.8%)、あまりあてはまらない 4 件 (4.7%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。30 歳代は、とてもあてはまる 35 件 (50.7%)、まああてはまる 32 件 (46.4%)、あまりあてはまらない 0 件 (0.0%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。40 歳代は、とてもあてはまる 34 件 (37.8%)、まああてはまる 52 件 (57.8%)、あまりあてはまらない 3 件 (3.3%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 22 件 (28.9%)、まああてはまる 52 件 (68.4%)、あまりあてはまらない 2 件 (2.6%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。

知的好奇心が刺激されたについて、20歳代は、とてもあてはまる 34 件 (39.5%)、まああてはまる 42 件 (48.8%)、あまりあてはまらない 9 件 (10.5%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.2%) であった。30歳代は、とてもあてはまる 22 件 (31.9%)、まああてはまる 41 件 (59.4%)、あまりあてはまらない 4 件 (5.8%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。40歳代は、とてもあてはまる 29 件 (32.2%)、まああてはまる 53 件 (58.9%)、あまりあてはまらない 7 件 (7.8%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。50歳以上は、とてもあてはまる 17 件 (22.4%)、まああてはまる 48 件 (63.2%)、あまりあてはまらない 9 件 (11.8%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.3%) であった。

時間のわりに得られるものが少なかったについて、20歳代は、とてもあてはまる 6 件 (7.0%)、まああてはまる 17 件 (19.8%)、あまりあてはまらない 54 件 (62.8%)、まったくあてはまらない 9 件 (10.5%) であった。30歳代は、とてもあてはまる 1 件 (1.4%)、まああてはまる 16 件 (23.2%)、あまりあてはまらない 46 件 (66.7%)、まったくあてはまらない 4 件 (5.8%) であった。40歳代は、とてもあてはまる 4 件 (4.4%)、まああてはまる 23 件 (25.6%)、あまりあてはまらない 58 件 (64.4%)、まったくあてはまらない 4 件 (4.4%) であった。50歳以上は、とてもあてはまる 0 件 (0.0%)、まああてはまる 20 件 (26.3%)、あまりあてはまらない 45 件 (59.2%)、まったくあてはまらない 11 件 (14.5%) であった。

人的ネットワークを構築できたについて、20歳代は、とてもあてはまる 4 件 (4.7%)、まああてはまる 30 件 (34.9%)、あまりあてはまらない 44 件 (51.2%)、まったくあてはまらない 8 件 (9.3%) であった。30歳代は、とてもあてはまる 10 件 (14.5%)、まああてはまる 26 件 (37.7%)、あまりあてはまらない 27 件 (39.1%)、まったくあてはまらない 4 件 (5.8%) であった。40歳代は、とてもあてはまる 8 件 (8.9%)、まああてはまる 30 件 (33.3%)、あまりあてはまらない 48 件 (43.4%)、まったくあてはまらない 3 件 (3.3%) であった。50歳以上は、とてもあてはまる 5 件 (6.6%)、まああてはまる 33 件 (43.4%)、あまりあてはまらない 33 件 (43.4%)、まったくあてはまらない 5 件 (6.6%) であった。

最新情報や先進事例から触発を受けたについて、20歳代は、とてもあてはまる 14 件 (16.3%)、まああてはまる 54 件 (62.8%)、あまりあてはまらない 17 件 (19.8%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.2%) であった。30歳代は、とてもあてはまる 19 件 (27.5%)、まああてはまる 42 件 (60.9%)、あまりあてはまらない 6 件 (8.7%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。40歳代は、とてもあてはまる 24 件 (26.7%)、まああてはまる 55 件 (61.1%)、あまりあてはまらない 9 件 (10.0%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.1%) であった。50歳以上は、とてもあてはまる 16 件 (21.1%)、まああてはまる 48 件 (63.2%)、あまりあてはまらない 10 件 (13.2%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.6%) であった。

日常業務から解放され、リフレッシュできたについて、20歳代は、とてもあてはまる 14 件 (16.3%)、まああてはまる 51 件 (59.3%)、あまりあてはまらない 15 件 (17.4%)、まったくあてはまらない 6 件 (7.0%) であった。30歳代は、とてもあてはまる 13 件 (18.8%)、まああてはまる 34 件 (49.3%)、あまりあてはまらない 15 件 (21.7%)、ま

まったくあてはまらない5 件(7.2%)であった。40歳代は、とてもあてはまる13 件(14.4%)、まああてはまる44 件(48.9%)、あまりあてはまらない27 件(30.0%)、まったくあてはまらない5 件(5.6%)であった。50歳以上は、とてもあてはまる14 件(18.4%)、まああてはまる33 件(43.4%)、あまりあてはまらない26 件(34.2%)、まったくあてはまらない3 件(3.9%)であった。

専門知識・技能を獲得できたについて、20歳代は、とてもあてはまる31 件(36.0%)、まああてはまる47 件(54.7%)、あまりあてはまらない7 件(8.1%)、まったくあてはまらない1 件(1.2%)であった。30歳代は、とてもあてはまる26 件(37.7%)、まああてはまる40 件(58.0%)、あまりあてはまらない1 件(1.4%)、まったくあてはまらない0 件(0.0%)であった。40歳代は、とてもあてはまる26 件(28.9%)、まああてはまる57 件(63.3%)、あまりあてはまらない6 件(6.7%)、まったくあてはまらない0 件(0.0%)であった。50歳以上は、とてもあてはまる20 件(26.3%)、まああてはまる53 件(69.7%)、あまりあてはまらない3 件(3.9%)、まったくあてはまらない0 件(0.0%)であった。

自らの教育実践にはあまり役立たなかったについて、20歳代は、とてもあてはまる2 件(2.3%)、まああてはまる6 件(7.0%)、あまりあてはまらない58 件(67.4%)、まったくあてはまらない20 件(23.3%)であった。30歳代は、とてもあてはまる0 件(0.0%)、まああてはまる5 件(7.2%)、あまりあてはまらない45 件(65.2%)、まったくあてはまらない17 件(24.6%)であった。40歳代は、とてもあてはまる0 件(0.0%)、まああてはまる12 件(13.3%)、あまりあてはまらない62 件(68.9%)、まったくあてはまらない15 件(16.7%)であった。50歳以上は、とてもあてはまる0 件(0.0%)、まああてはまる12 件(15.8%)、あまりあてはまらない43 件(56.6%)、まったくあてはまらない21 件(27.6%)であった。

表18. 研修に参加した感想

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差
1	有益な情報を収集できた	20歳代	34	48	4	0	0	86	ns
			39.5%	55.8%	4.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
		30歳代	35	32	0	0	2	69	
			50.7%	46.4%	0.0%	0.0%	2.9%	100.0%	
		40歳代	34	52	3	0	1	90	
			37.8%	57.8%	3.3%	0.0%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	22	52	2	0	0	76	
2	知的的好奇心が刺激された	20歳代	28.9%	68.4%	2.6%	0.0%	0.0%	100.0%	ns
			0	3	0	0	0	3	
		30歳代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
			125	187	9	0	3	324	
		40歳代	38.6%	57.7%	2.8%	0.0%	0.9%	100.0%	
			34	42	9	1	0	86	
		50歳以上	39.5%	48.8%	10.5%	1.2%	0.0%	100.0%	
		20歳代	22	41	4	0	2	69	ns
			31.9%	59.4%	5.8%	0.0%	2.9%	100.0%	
		30歳代	29	53	7	0	1	90	
			32.2%	58.9%	7.8%	0.0%	1.1%	100.0%	
		40歳代	17	48	9	1	1	76	
			22.4%	63.2%	11.8%	1.3%	1.3%	100.0%	
		50歳以上	0	2	1	0	0	3	
		20歳代	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	ns
			102	186	30	2	4	324	
		30歳代	31.5%	57.4%	9.3%	0.6%	1.2%	100.0%	
			34	42	9	1	0	86	
		40歳代	39.5%	48.8%	10.5%	1.2%	0.0%	100.0%	
			22	41	4	0	2	69	
		50歳以上	31.9%	59.4%	5.8%	0.0%	2.9%	100.0%	

No.	設問	群	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	未記入	総計	有意差
3	時間のわりに得られるものが少なかった	20歳代	6	17	54	9	0	86	ns
			7.0%	19.8%	62.8%	10.5%	0.0%	100.0%	
		30歳代	1	16	46	4	2	69	
			1.4%	23.2%	66.7%	5.8%	2.9%	100.0%	
		40歳代	4	23	58	4	1	90	
			4.4%	25.6%	64.4%	4.4%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	0	20	45	11	0	76	
			0.0%	26.3%	59.2%	14.5%	0.0%	100.0%	
4	人的ネットワークを構築できた	20歳代	0	0	3	0	0	3	ns
			0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		30歳代	11	76	206	28	3	324	
			3.4%	23.5%	63.6%	8.6%	0.9%	100.0%	
		40歳代	4	30	44	8	0	86	
			4.7%	34.9%	51.2%	9.3%	0.0%	100.0%	
		30歳代	10	26	27	4	2	69	
			14.5%	37.7%	39.1%	5.8%	2.9%	100.0%	
5	最新情報や先進事例から触発を受けた	40歳代	8	30	48	3	1	90	ns
			8.9%	33.3%	53.3%	3.3%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	5	33	33	5	0	76	
			6.6%	43.4%	43.4%	6.6%	0.0%	100.0%	
		未回答	0	1	2	0	0	3	
			0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	27	120	154	20	3	324	
			8.3%	37.0%	47.5%	6.2%	0.9%	100.0%	
6	日常業務から解放され、リフレッシュできた	20歳代	14	54	17	1	0	86	ns
			16.3%	62.8%	19.8%	1.2%	0.0%	100.0%	
		30歳代	19	42	6	0	2	69	
			27.5%	60.9%	8.7%	0.0%	2.9%	100.0%	
		40歳代	24	55	9	1	1	90	
			26.7%	61.1%	10.0%	1.1%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	16	48	10	2	0	76	
			21.1%	63.2%	13.2%	2.6%	0.0%	100.0%	
7	専門知識・技能を獲得できた	未回答	0	3	0	0	0	3	ns
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	73	202	42	4	3	324	
			22.5%	62.3%	13.0%	1.2%	0.9%	100.0%	
		20歳代	14	51	15	6	0	86	
			16.3%	59.3%	17.4%	7.0%	0.0%	100.0%	
		30歳代	13	34	15	5	2	69	
			18.8%	49.3%	21.7%	7.2%	2.9%	100.0%	
		40歳代	13	44	27	5	1	90	ns
			14.4%	48.9%	30.0%	5.6%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	14	33	26	3	0	76	
			18.4%	43.4%	34.2%	3.9%	0.0%	100.0%	
		未回答	0	1	2	0	0	3	
			0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	54	163	85	19	3	324	
			16.7%	50.3%	26.2%	5.9%	0.9%	100.0%	
		20歳代	31	47	7	1	0	86	ns
			36.0%	54.7%	8.1%	1.2%	0.0%	100.0%	
		30歳代	26	40	1	0	2	69	
			37.7%	58.0%	1.4%	0.0%	2.9%	100.0%	
		40歳代	26	57	6	0	1	90	
			28.9%	63.3%	6.7%	0.0%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	20	53	3	0	0	76	
			26.3%	69.7%	3.9%	0.0%	0.0%	100.0%	
		未回答	0	3	0	0	0	3	ns
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	103	200	17	1	3	324	
			31.8%	61.7%	5.2%	0.3%	0.9%	100.0%	

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差
8	自らの教育実践にはあまり役立たなかった	20歳代	2	6	58	20	0	86	ns
			2.3%	7.0%	67.4%	23.3%	0.0%	100.0%	
		30歳代	0	5	45	17	2	69	
			0.0%	7.2%	65.2%	24.6%	2.9%	100.0%	
		40歳代	0	12	62	15	1	90	
			0.0%	13.3%	68.9%	16.7%	1.1%	100.0%	
		50歳以上	0	12	43	21	0	76	
			0.0%	15.8%	56.6%	27.6%	0.0%	100.0%	
		未回答	0	0	2	1	0	3	
			0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	
総計	2	35	210	74	3	324			
	0.6%	10.8%	64.8%	22.8%	0.9%	100.0%			

4) 少数職種の研修について

年齢区分の少数職種の研修に対する意識についての比較の結果を表 19 に示した。日常の業務が忙しく、研修に参加しにくいについて、20 歳代は、とてもあてはまる 13 件 (15.1%)、まああてはまる 38 件 (44.2%)、あまりあてはまらない 31 件 (36.0%)、まったくあてはまらない 4 件 (4.7%) であった。30 歳代は、とてもあてはまる 13 件 (18.8%)、まああてはまる 32 件 (46.4%)、あまりあてはまらない 21 件 (30.4%)、まったくあてはまらない 3 件 (4.3%) であった。40 歳代は、とてもあてはまる 25 件 (27.8%)、まああてはまる 43 件 (47.8%)、あまりあてはまらない 21 件 (23.3%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.1%) であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 14 件 (18.4%)、まああてはまる 45 件 (59.2%)、あまりあてはまらない 15 件 (19.7%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.6%) であった。

少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくいについて、20 歳代は、とてもあてはまる 33 件 (38.4%)、まああてはまる 37 件 (43.0%)、あまりあてはまらない 13 件 (15.1%)、まったくあてはまらない 3 件 (3.5%) であった。30 歳代は、とてもあてはまる 21 件 (30.4%)、まああてはまる 30 件 (43.5%)、あまりあてはまらない 17 件 (24.6%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.4%) であった。40 歳代は、とてもあてはまる 26 件 (28.9%)、まああてはまる 46 件 (51.1%)、あまりあてはまらない 18 件 (20.0%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 15 件 (19.7%)、まああてはまる 41 件 (53.9%)、あまりあてはまらない 18 件 (23.7%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.6%) であった。

管理職の理解があれば、様々な研修が可能であるについて、20 歳代は、とてもあてはまる 19 件 (22.1%)、まああてはまる 50 件 (58.1%)、あまりあてはまらない 11 件 (12.8%)、まったくあてはまらない 6 件 (7.0%) であった。30 歳代は、とてもあてはまる 23 件 (25.6%)、まああてはまる 29 件 (45.6%)、あまりあてはまらない 12 件 (17.4%)、まったくあてはまらない 5 件 (7.2%) であった。40 歳代は、とてもあてはまる 23 件 (25.6%)、まああてはまる 41 件 (45.6%)、あまりあてはまらない 22 件 (24.4%)、まったくあてはまらない 4 件 (4.4%) であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 19 件 (25.0%)、まああてはまる 32 件 (42.1%)、あまりあてはまらない 23 件 (30.3%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.3%) であった。

研修としても、もっとインターネットを活用したいについて、20 歳代は、とてもあては

まる 8 件(9.3%)、まああてはまる 29 件(33.7%)、あまりあてはまらない 41 件(47.7%)、まったくあてはまらない 8 件(9.3%)であった。30 歳代は、とてもあてはまる 3 件(4.3%)、まああてはまる 21 件(30.4%)、あまりあてはまらない 38 件(55.1%)、まったくあてはまらない 7 件(10.1%)であった。40 歳代は、とてもあてはまる 9 件(10.0%)、まああてはまる 32 件(35.6%)、あまりあてはまらない 47 件(52.2%)、まったくあてはまらない 2 件(2.2%)であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 7 件(9.2%)、まああてはまる 30 件(39.5%)、あまりあてはまらない 34 件(44.7%)、まったくあてはまらない 5 件(6.6%)であった。

出身養成校の教員と情報交換をしているについて、20 歳代は、とてもあてはまる 6 件(7.0%)、まああてはまる 18 件(20.9%)、あまりあてはまらない 33 件(38.4%)、まったくあてはまらない 29 件(33.7%)であった。30 歳代は、とてもあてはまる 2 件(2.9%)、まああてはまる 13 件(18.8%)、あまりあてはまらない 17 件(24.6%)、まったくあてはまらない 37 件(53.6%)であった。40 歳代は、とてもあてはまる 2 件(2.2%)、まああてはまる 6 件(6.7%)、あまりあてはまらない 28 件(31.1%)、まったくあてはまらない 54 件(60.0%)であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 4 件(5.3%)、まああてはまる 7 件(9.2%)、あまりあてはまらない 22 件(28.9%)、まったくあてはまらない 42 件(55.3%)であった。

教育委員会や教職員組合などの研修で十分であるについて、20 歳代は、とてもあてはまる 1 件(1.2%)、まああてはまる 28 件(32.6%)、あまりあてはまらない 47 件(54.7%)、まったくあてはまらない 10 件(11.6%)であった。30 歳代は、とてもあてはまる 0 件(0.0%)、まああてはまる 19 件(27.5%)、あまりあてはまらない 39 件(56.5%)、まったくあてはまらない 10 件(14.5%)であった。40 歳代は、とてもあてはまる 3 件(3.3%)、まああてはまる 19 件(21.1%)、あまりあてはまらない 55 件(61.1%)、まったくあてはまらない 13 件(14.4%)であった。50 歳以上は、とてもあてはまる 0 件(0.0%)、まああてはまる 24 件(31.6%)、あまりあてはまらない 44 件(57.9%)、まったくあてはまらない 7 件(9.2%)であった。

表19. 少数職種種の研修について

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差
1	日常の業務が忙しく、研修に参加しにくい	20歳代	13	38	31	4	0	86	ns
			15.1%	44.2%	36.0%	4.7%	0.0%	100.0%	
		30歳代	13	32	21	3	0	69	
			18.8%	46.4%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%	
		40歳代	25	43	21	1	0	90	
			27.8%	47.8%	23.3%	1.1%	0.0%	100.0%	
		50歳以上	14	45	15	2	0	76	
			18.4%	59.2%	19.7%	2.6%	0.0%	100.0%	
		未回答	0	3	0	0	0	3	
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	65	161	88	10	0	324	
			20.1%	49.7%	27.2%	3.1%	0.0%	100.0%	

No.	設問	群	とても あてはま る	まあ あてはま る	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	未記入	総計	有意差
2	少数職種 なので勤務校で他 者と悩み を共有しに くい	20歳代	33	37	13	3	0	86	ns
			38.4%	43.0%	15.1%	3.5%	0.0%	100.0%	
		30歳代	21	30	17	1	0	69	
			30.4%	43.5%	24.6%	1.4%	0.0%	100.0%	
		40歳代	26	46	18	0	0	90	
			28.9%	51.1%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		50歳以上	15	41	18	2	0	76	
			19.7%	53.9%	23.7%	2.6%	0.0%	100.0%	
3	管理職の 理解があ れば、 様々な研 修が可能 である	20歳代	0	1	2	0	0	3	ns
			0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
		30歳代	95	155	68	6	0	324	
			29.3%	47.8%	21.0%	1.9%	0.0%	100.0%	
		40歳代	19	50	11	6	0	86	
			22.1%	58.1%	12.8%	7.0%	0.0%	100.0%	
		30歳代	23	29	12	5	0	69	
			33.3%	42.0%	17.4%	7.2%	0.0%	100.0%	
4	研修として も、もっと インター ネットを活 用したい	40歳代	23	41	22	4	0	90	ns
			25.6%	45.6%	24.4%	4.4%	0.0%	100.0%	
		50歳以上	19	32	23	1	1	76	
			25.0%	42.1%	30.3%	1.3%	1.3%	100.0%	
		未回答	0	1	2	0	0	3	
			0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	84	153	70	16	1	324	
			25.9%	47.2%	21.6%	4.9%	0.3%	100.0%	
5	出身養成 校の教員 と情報交 換をしてい る	20歳代	8	29	41	8	0	86	**
			9.3%	33.7%	47.7%	9.3%	0.0%	100.0%	
		30歳代	3	21	38	7	0	69	
			4.3%	30.4%	55.1%	10.1%	0.0%	100.0%	
		40歳代	9	32	47	2	0	90	
			10.0%	35.6%	52.2%	2.2%	0.0%	100.0%	
		50歳以上	7	30	34	5	0	76	
			9.2%	39.5%	44.7%	6.6%	0.0%	100.0%	
6	教育委員 会や教職 員組合な どの研修 で十分で ある	未回答	0	2	1	0	0	3	ns
			0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	27	114	161	22	0	324	
			8.3%	35.2%	49.7%	6.8%	0.0%	100.0%	
		20歳代	6	18	33	29	0	86	
			7.0%	20.9%	38.4%	33.7%	0.0%	100.0%	
		30歳代	2	13	17	37	0	69	
			2.9%	18.8%	24.6%	53.6%	0.0%	100.0%	
5	出身養成 校の教員 と情報交 換をしてい る	40歳代	2	6	28	54	0	90	**
			2.2%	6.7%	31.1%	60.0%	0.0%	100.0%	
		50歳以上	4	7	22	42	1	76	
			5.3%	9.2%	28.9%	55.3%	1.3%	100.0%	
		未回答	0	1	1	1	0	3	
			0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%	
		総計	14	45	101	163	1	324	
			4.3%	13.9%	31.2%	50.3%	0.3%	100.0%	
6	教育委員 会や教職 員組合な どの研修 で十分で ある	20歳代	1	28	47	10	0	86	ns
			1.2%	32.6%	54.7%	11.6%	0.0%	100.0%	
		30歳代	0	19	39	10	1	69	
			0.0%	27.5%	56.5%	14.5%	1.4%	100.0%	
		40歳代	3	19	55	13	0	90	
			3.3%	21.1%	61.1%	14.4%	0.0%	100.0%	
		50歳以上	0	24	44	7	1	76	
			0.0%	31.6%	57.9%	9.2%	1.3%	100.0%	
6	教育委員 会や教職 員組合な どの研修 で十分で ある	未回答	0	2	1	0	0	3	ns
			0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	4	92	186	40	2	324	
			1.2%	28.4%	57.4%	12.3%	0.6%	100.0%	

5) 研修に関する意識について

年齢区分の研修に関する意識についての比較の結果を表 20 に示した。参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがあるとした回答は、20 歳代 19 件 (22.1%)、30 歳代 38 件 (55.1%)、40 歳代 57 件 (3.3%)、50 歳以上 54 件 (71.1%) であった。

研修で得た良い情報は、校内で共有しているとした回答は、20 歳代 43 件 (5.0%)、30 歳代 47 件 (68.1%)、40 歳代 57 件 (63.3%)、50 歳以上 42 件 (55.3%) であった。

参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しないとした回答は、20 歳代 38 件 (44.2%)、30 歳代 14 件 (20.3%)、40 歳代 17 件 (18.9%)、50 歳以上 9 件 (11.8%) であった。

平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しないとした回答は、20 歳代 18 件 (20.9%)、30 歳代 18 件 (26.1%)、40 歳代 29 件 (32.2%)、50 歳以上 17 件 (22.4%) であった。

自ら実践体験できる研修を選んで参加したとした回答は、20 歳代 26 件 (30.2%)、30 歳代 20 件 (29.0%)、40 歳代 24 件 (26.7%)、50 歳以上 26 件 (34.2%) であった。

新たな知識を得られる講話は好きであるとした回答は、20 歳代 83 件 (96.5%)、30 歳代 63 件 (91.3%)、40 歳代 85 件 (94.4%)、50 歳以上 67 件 (88.2%) であった。

インターネットを活用して情報を得るようにしているとした回答は、20 歳代 27 件 (31.4%)、30 歳代 29 件 (42.0%)、40 歳代 43 件 (47.8%)、50 歳以上 33 件 (43.2%) であった。

専門誌、専門書から情報を得るようにしているとした回答は、20 歳代 42 件 (48.8%)、30 歳代 50 件 (72.5%)、40 歳代 53 件 (58.9%)、50 歳以上 47 件 (61.8%) であった。

他職種の方々が講師の研修に参加したいとした回答は、20 歳代 26 件 (30.2%)、30 歳代 24 件 (34.8%)、40 歳代 34 件 (37.8%)、50 歳以上 20 件 (26.3%) であった。

専門家の集まる学会に参加するのは気後れするとした回答は、20 歳代 16 件 (18.6%)、30 歳代 12 件 (17.4%)、40 歳代 18 件 (20.0%)、50 歳以上 12 件 (15.8%) であった。

表20. 研修に関する意識について

No.	設問	群	はい	いいえ	総計	有意差	20歳代 30歳代	20歳代 40歳代	20歳代 50歳以上	30歳代 40歳代	30歳代 50歳以上	40歳代 50歳以上
1	参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがある	20歳代	19	67	86	***	***	***	***	ns	*	ns
			22.1%	77.9%	100.0%							
		30歳代	38	31	69							
			55.1%	44.9%	100.0%							
		40歳代	57	33	90							
			63.3%	36.7%	100.0%							
		50歳以上	54	22	76							
			71.1%	28.9%	100.0%							
		未回答	2	1	3							
2	研修で得た良い情報は、校内で共有している	20歳代	43	43	86	ns						
			50.0%	50.0%	100.0%							
		30歳代	47	22	69							
			68.1%	31.9%	100.0%							
		40歳代	57	33	90							
			63.3%	36.7%	100.0%							
		50歳以上	42	34	76							
			55.3%	44.7%	100.0%							
		未回答	2	1	3							
		総計	170	154	324		30歳代	40歳代	50歳以上		50歳以上	
			52.5%	47.5%	100.0%							
		20歳代	43	43	86							
			50.0%	50.0%	100.0%							
		30歳代	47	22	69							
			68.1%	31.9%	100.0%							
		40歳代	57	33	90							
			63.3%	36.7%	100.0%							
		50歳以上	42	34	76							
			55.3%	44.7%	100.0%							
		未回答	2	1	3							
		総計	191	133	324							
			59.0%	41.0%	100.0%							

No.	設問	群	はい	いいえ	総計	有意差	20歳代 30歳代	20歳代 40歳代	20歳代 50歳以上	30歳代 40歳代	30歳代 50歳以上	40歳代 50歳以上
3	参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しない	20歳代	38	48	86	***	**	***	***	ns	*	ns
			44.2%	55.8%	100.0%							
		30歳代	14	55	69							
			20.3%	79.7%	100.0%							
		40歳代	17	73	90							
			18.9%	81.1%	100.0%							
		50歳以上	9	67	76							
			11.8%	88.2%	100.0%							
4	平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しない	20歳代	0	3	3	ns	20歳代	20歳代	20歳代		30歳代	
			0.0%	100.0%	100.0%							
		30歳代	78	246	324							
			24.1%	75.9%	100.0%							
		40歳代	18	68	86							
			20.9%	79.1%	100.0%							
		50歳以上	18	51	69							
			26.1%	73.9%	100.0%							
5	自ら実践体験できる研修を選んで参加した	20歳代	29	61	90	ns						
			32.2%	67.8%	100.0%							
		30歳代	26	50	76							
			34.2%	65.8%	100.0%							
		40歳代	0	3	3							
			0.0%	100.0%	100.0%							
		50歳以上	96	228	324							
			29.6%	70.4%	100.0%							
6	新たな知識を得られる講話は好きである	20歳代	83	3	86	ns						
			96.5%	3.5%	100.0%							
		30歳代	63	6	69							
			91.3%	8.7%	100.0%							
		40歳代	85	5	90							
			94.4%	5.6%	100.0%							
		50歳以上	67	9	76							
			88.2%	11.8%	100.0%							
7	インターネットを活用して情報を得るようにしている	20歳代	3	0	3	ns						
			100.0%	0.0%	100.0%							
		30歳代	301	23	324							
			92.9%	7.1%	100.0%							
		40歳代	27	59	86							
			31.4%	68.6%	100.0%							
		50歳以上	29	40	69							
			42.0%	58.0%	100.0%							
8	専門誌、専門書から情報を得ようとしている	20歳代	43	47	90	*	**	ns	ns	ns	ns	ns
			47.8%	52.2%	100.0%							
		30歳代	33	43	76							
			43.4%	56.6%	100.0%							
		40歳代	2	1	3							
			66.7%	33.3%	100.0%							
		50歳以上	134	190	324							
			41.4%	58.6%	100.0%							
9	他職種の方々が講師の研修に参加したい	20歳代	42	44	86	ns	30歳代					
			48.8%	51.2%	100.0%							
		30歳代	50	19	69							
			72.5%	27.5%	100.0%							
		40歳代	53	37	90							
			58.9%	41.1%	100.0%							
		50歳以上	47	29	76							
			61.8%	38.2%	100.0%							

No.	設問	群	はい	いいえ	総計	有意差	20歳代 30歳代	20歳代 40歳代	20歳代 50歳以上	30歳代 40歳代	30歳代 50歳以上	40歳代 50歳以上
10	専門家の集まる学会に参加するのは 気後れする	20歳代	16	70	86	ns						
			18.6%	81.4%	100.0%							
		30歳代	12	57	69							
			17.4%	82.6%	100.0%							
		40歳代	18	72	90							
			20.0%	80.0%	100.0%							
		50歳以上	12	64	76							
		未回答	0	3	3							
			0.0%	100.0%	100.0%							
		総計	58	266	324							
			17.9%	82.1%	100.0%							

(3) 現職校種区分比較

1) 研修会・学会等での発表経験の有無

現職校種区分別の研修会・学会等での発表経験の有無の結果を表 21 に示した。小学校は、発表経験あり 41 件 (43.6%)、発表経験なし 53 件 (56.4%) であった。中学校は、発表経験あり 36 件 (67.9%)、発表経験なし 17 件 (32.1%) であった。高等学校は、発表経験あり 48 件 (57.8%)、発表経験なし 35 件 (42.2%) であった。特別支援学校は、発表経験あり 41 件 (44.1%)、発表経験なし 52 件 (55.9%) であった。

表21. 講演会・研究会での発表経験

No.	群	発表経験あり	発表経験なし	総計	有意差	小学校 中学校	小学校 高等学校	小学校 特別支援	中学校 高等学校	中学校 特別支援	高等学校 特別支援
1	小学校	41	53	94	**	**	ns	ns	ns	**	ns
		43.6%	56.4%	100%							
	中学校	36	17	53							
		67.9%	32.1%	100%							
	高等学校	48	35	83							
		57.8%	42.2%	100%							
	特別支援 学校	41	52	93							
		44.1%	55.9%	100%							
	未記入	0	1	1		中学校				中学校	
		0.0%	100.0%	100%							
	総計	166	158	324							
		51.2%	48.8%	100%							

2) 後輩に紹介したい講演会の有無

現職校種区分別の後輩に紹介したい講演会の有無の結果を表 22 に示した。小学校においては、たくさんある 9 件 (9.6%)、まずまずある 61 件 (64.9%)、あまりない 19 件 (20.2%)、まったくない 3 件 (3.2%) であった。中学校においては、たくさんある 8 件 (15.1%)、まずまずある 35 件 (66.0%)、あまりない 5 件 (9.4%)、まったくない 0 件 (0.0%) であった。高等学校においては、たくさんある 5 件 (6.0%)、まずまずある 57 件 (68.7%)、あまりない 13 件 (15.7%)、まったくない 0 件 (0.0%) であった。特別支援学校においては、たくさんある 11 件 (11.8%)、まずまずある 5 件 (58.1%)、あまりない 7 件 (18.3%)、まったくない 2 件 (2.2%) であった。

表22. 後輩に紹介したい講演会の有無

No.	群	たくさんある	まづまづある	あまりない	まったくない	未記入	総計	有意差
1	小学校	9	61	19	3	2	94	ns
		9.6%	64.9%	20.2%	3.2%	2.1%	100.0%	
	中学校	8	35	5		5	53	
		15.1%	66.0%	9.4%	0.0%	9.4%	100.0%	
	高等学校	5	57	13		8	83	
		6.0%	68.7%	15.7%	0.0%	9.6%	100.0%	
	特別支援学校	11	54	17	2	9	93	
		11.8%	58.1%	18.3%	2.2%	9.7%	100.0%	
	未記入		1				1	
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	総計	33	208	54	5	24	324	
		10.2%	64.2%	16.7%	1.5%	7.4%	100.0%	

3) これまでに参加した研修での感想

現職校種区分別のこれまでに参加した研修での感想の結果を表 23 に示した。有益な情報を収集できたについて、小学校は、とてもあてはまる 33 件 (35.1%)、まああてはまる 55 件 (58.5%)、あまりあてはまらない 4 件 (4.3%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。中学校は、とてもあてはまる 15 件 (28.3%)、まああてはまる 37 件 (69.8%)、あまりあてはまらない 1 件 (1.9%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 37 件 (44.6%)、まああてはまる 46 件 (55.4%)、あまりあてはまらない 0 件 (0.0%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 40 件 (43.0%)、まああてはまる 48 件 (51.6%)、あまりあてはまらない 4 件 (4.3%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。

知的好奇心が刺激されたについて、小学校は、とてもあてはまる 24 件 (25.5%)、まああてはまる 58 件 (61.7%)、あまりあてはまらない 8 件 (8.5%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.1%) であった。中学校は、とてもあてはまる 17 件 (32.1%)、まああてはまる 29 件 (54.7%)、あまりあてはまらない 7 件 (13.2%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 28 件 (33.7%)、まああてはまる 46 件 (55.4%)、あまりあてはまらない 9 件 (10.8%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 33 件 (35.5%)、まああてはまる 52 件 (55.9%)、あまりあてはまらない 6 件 (6.5%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。

時間のわりに得られるものが少なかったについて、小学校は、とてもあてはまる 4 件 (4.3%)、まああてはまる 17 件 (18.1%)、あまりあてはまらない 63 件 (67.0%)、まったくあてはまらない 8 件 (8.5%) であった。中学校は、とてもあてはまる 2 件 (3.8%)、まああてはまる 19 件 (35.8%)、あまりあてはまらない 28 件 (52.8%)、まったくあてはまらない 4 件 (7.5%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 1 件 (1.2%)、まああてはまる 17 件 (20.5%)、あまりあてはまらない 55 件 (66.3%)、まったくあてはまらない 10 件 (12.0%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 4 件 (4.3%)、まああてはまる 23 件 (24.7%)、あまりあてはまらない 59 件 (63.4%)、まったくあてはまらない 6 件 (6.5%) であった。

であった。

人的ネットワークを構築できたについて、小学校は、とてもあてはまる 5 件 (5.3%)、まああてはまる 31 件 (33.0%)、あまりあてはまらない 49 件 (52.1%)、まったくあてはまらない 7 件 (7.4%) であった。中学校は、とてもあてはまる 4 件 (7.5%)、まああてはまる 21 件 (39.6%)、あまりあてはまらない 25 件 (47.2%)、まったくあてはまらない 3 件 (5.7%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 10 件 (12.0%)、まああてはまる 29 件 (34.9%)、あまりあてはまらない 39 件 (47.0%)、まったくあてはまらない 5 件 (6.0%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 8 件 (8.6%)、まああてはまる 38 件 (40.9%)、あまりあてはまらない 41 件 (44.1%)、まったくあてはまらない 5 件 (5.4%) であった。

最新情報や先進事例から触発を受けたについて、小学校は、とてもあてはまる 21 件 (22.3%)、まああてはまる 54 件 (57.4%)、あまりあてはまらない 15 件 (16.0%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.1%) であった。中学校は、とてもあてはまる 8 件 (15.1%)、まああてはまる 36 件 (67.9%)、あまりあてはまらない 9 件 (17.0%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 27 件 (32.5%)、まああてはまる 50 件 (60.2%)、あまりあてはまらない 5 件 (6.0%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.2%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 16 件 (17.2%)、まああてはまる 62 件 (66.7%)、あまりあてはまらない 13 件 (14.0%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.1%) であった。

日常業務から解放され、リフレッシュできたについて、小学校は、とてもあてはまる 15 件 (16.0%)、まああてはまる 46 件 (48.9%)、あまりあてはまらない 26 件 (27.7%)、まったくあてはまらない 5 件 (5.3%) であった。中学校は、とてもあてはまる 8 件 (15.1%)、まああてはまる 28 件 (52.8%)、あまりあてはまらない 14 件 (26.4%)、まったくあてはまらない 3 件 (5.7%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 18 件 (21.7%)、まああてはまる 43 件 (51.8%)、あまりあてはまらない 16 件 (19.3%)、まったくあてはまらない 6 件 (7.2%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 13 件 (14.0%)、まああてはまる 45 件 (48.5%)、あまりあてはまらない 29 件 (31.2%)、まったくあてはまらない 5 件 (5.4%) であった。

専門知識・技能を獲得できたについて、小学校は、とてもあてはまる 23 件 (24.5%)、まああてはまる 65 件 (69.1%)、あまりあてはまらない 3 件 (3.2%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.1%) であった。中学校は、とてもあてはまる 15 件 (28.3%)、まああてはまる 35 件 (66.0%)、あまりあてはまらない 3 件 (5.7%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 33 件 (39.8%)、まああてはまる 45 件 (54.2%)、あまりあてはまらない 5 件 (6.0%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 32 件 (34.4%)、まああてはまる 54 件 (58.1%)、あまりあてはまらない 6 件 (6.5%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。

自らの教育実践にはあまり役立たなかったについて、小学校は、とてもあてはまる 1 件 (1.1%)、まああてはまる 6 件 (6.4%)、あまりあてはまらない 65 件 (69.1%)、まったくあてはまらない 20 件 (21.3%) であった。中学校は、とてもあてはまる 0 件 (0.0%)、まああてはまる 9 件 (17.0%)、あまりあてはまらない 35 件 (66.0%)、まったくあてはまらない 9 件 (17.0%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 0 件 (0.0%)、まああてはま

る 8 件 (9.6%)、あまりあてはまらない 49 件 (59.0%)、まったくあてはまらない 26 件 (31.3%) であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 1 件 (1.1%)、まああてはまる 12 件 (12.9%)、あまりあてはまらない 60 件 (64.5%)、まったくあてはまらない 19 件 (20.4%) であった。

表23. 研修に参加した感想

N o.	設問	群	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまら ない	まったく あてはまら ない	未記入	総計	有意差
1	有益な情 報を収集 できた	小学校	33	55	4	0	2	94	ns
			35.1%	58.5%	4.3%	0.0%	2.1%	100.0%	
		中学校	15	37	1	0	0	53	
			28.3%	69.8%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%	
		高等学校	37	46	0	0	0	83	
			44.6%	55.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	40	48	4	0	1	93	
			43.0%	51.6%	4.3%	0.0%	1.1%	100.0%	
		未記入	0	1	0	0	0	1	
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	125	187	9	0	3	324	
			38.6%	57.7%	2.8%	0.0%	0.9%	100.0%	
2	知的好奇 心が刺激 された	小学校	24	58	8	2	2	94	ns
			25.5%	61.7%	8.5%	2.1%	2.1%	100.0%	
		中学校	17	29	7	0	0	53	
			32.1%	54.7%	13.2%	0.0%	0.0%	100.0%	
		高等学校	28	46	9	0	0	83	
			33.7%	55.4%	10.8%	0.0%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	33	52	6	0	2	93	
			35.5%	55.9%	6.5%	0.0%	2.2%	100.0%	
		未記入	0	1	0	0	0	1	
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	102	186	30	2	4	324	
			31.5%	57.4%	9.3%	0.6%	1.2%	100.0%	
3	時間のわ りに得ら れるもの が少な かった	小学校	4	17	63	8	2	94	ns
			4.3%	18.1%	67.0%	8.5%	2.1%	100.0%	
		中学校	2	19	28	4	0	53	
			3.8%	35.8%	52.8%	7.5%	0.0%	100.0%	
		高等学校	1	17	55	10	0	83	
			1.2%	20.5%	66.3%	12.0%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	4	23	59	6	1	93	
			4.3%	24.7%	63.4%	6.5%	1.1%	100.0%	
		未記入	0	0	1	0	0	1	
			0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	11	76	206	28	3	324	
			3.4%	23.5%	63.6%	8.6%	0.9%	100.0%	

No.	設問	群	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	未記入	総計	有意差
4	人的ネット ワークを構 築できた	小学校	5	31	49	7	2	94	ns
			5.3%	33.0%	52.1%	7.4%	2.1%	100.0%	
		中学校	4	21	25	3	0	53	
			7.5%	39.6%	47.2%	5.7%	0.0%	100.0%	
		高等学校	10	29	39	5	0	83	
			12.0%	34.9%	47.0%	6.0%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	8	38	41	5	1	93	
			8.6%	40.9%	44.1%	5.4%	1.1%	100.0%	
5	最新情報 や先進事 例から触 発を受け た	小学校	0	1	0	0	0	1	ns
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		中学校	27	120	154	20	3	324	
			8.3%	37.0%	47.5%	6.2%	0.9%	100.0%	
		高等学校	21	54	15	2	2	94	
			22.3%	57.4%	16.0%	2.1%	2.1%	100.0%	
		中学校	8	36	9	0	0	53	
			15.1%	67.9%	17.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
6	日常業務 から解放 され、リフ レッシュで きた	高等学校	27	50	5	1	0	83	ns
			32.5%	60.2%	6.0%	1.2%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	16	62	13	1	1	93	
			17.2%	66.7%	14.0%	1.1%	1.1%	100.0%	
		未記入	1	0	0	0	0	1	
			100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	73	202	42	4	3	324	
			22.5%	62.3%	13.0%	1.2%	0.9%	100.0%	
7	専門知 識・技能を 獲得でき た	小学校	15	46	26	5	2	94	ns
			16.0%	48.9%	27.7%	5.3%	2.1%	100.0%	
		中学校	8	28	14	3	0	53	
			15.1%	52.8%	26.4%	5.7%	0.0%	100.0%	
		高等学校	18	43	16	6	0	83	
			21.7%	51.8%	19.3%	7.2%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	13	45	29	5	1	93	
			14.0%	48.4%	31.2%	5.4%	1.1%	100.0%	
8	自らの教 育実践に はあまり 役立たな かった	未記入	0	1	0	0	0	1	ns
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	54	163	85	19	3	324	
			16.7%	50.3%	26.2%	5.9%	0.9%	100.0%	
		小学校	23	65	3	1	2	94	
			24.5%	69.1%	3.2%	1.1%	2.1%	100.0%	
		中学校	15	35	3	0	0	53	
			28.3%	66.0%	5.7%	0.0%	0.0%	100.0%	
9	自らの教 育実践に はあまり 役立たな かった	高等学校	33	45	5	0	0	83	ns
			39.8%	54.2%	6.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	32	54	6	0	1	93	
			34.4%	58.1%	6.5%	0.0%	1.1%	100.0%	
		未記入	0	1	0	0	0	1	
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	103	200	17	1	3	324	
			31.8%	61.7%	5.2%	0.3%	0.9%	100.0%	
10	自らの教 育実践に はあまり 役立たな かった	小学校	1	6	65	20	2	94	ns
			1.1%	6.4%	69.1%	21.3%	2.1%	100.0%	
		中学校	0	9	35	9	0	53	
			0.0%	17.0%	66.0%	17.0%	0.0%	100.0%	
		高等学校	0	8	49	26	0	83	
			0.0%	9.6%	59.0%	31.3%	0.0%	100.0%	
		特別支援学校	1	12	60	19	1	93	
			1.1%	12.9%	64.5%	20.4%	1.1%	100.0%	
11	自らの教 育実践に はあまり 役立たな かった	未記入	0	0	1	0	0	1	ns
			0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
		総計	2	35	210	74	3	324	
			0.6%	10.8%	64.8%	22.8%	0.9%	100.0%	

4) 少数職種の研修について

現職校種区分の少数職種の研修に対する意識についての比較の結果を表 24 に示した。日

常の業務が忙しく、研修に参加しにくいについて、小学校は、とてもあてはまる 23 件 (24.5%)、まああてはまる 54 件 (57.4%)、あまりあてはまらない 15 件 (16.0%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.1%) であった。中学校は、とてもあてはまる 8 件 (15.1%)、まああてはまる 26 件 (49.1%)、あまりあてはまらない 17 件 (32.1%)、まったくあてはまらない 2 件 (3.8%)、であった。高等学校は、とてもあてはまる 11 件 (13.3%)、まああてはまる 38 件 (45.8%)、あまりあてはまらない 29 件 (34.9%)、まったくあてはまらない 5 件 (6.0%)、であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 22 件 (23.7%)、まああてはまる 43 件 (46.2%)、あまりあてはまらない 27 件 (29.0%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.1%) であった。

少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくいについて、小学校は、とてもあてはまる 30 件 (31.9%)、まああてはまる 47 件 (50.0%)、あまりあてはまらない 15 件 (16.0%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.1%)、であった。中学校は、とてもあてはまる 18 件 (34.0%)、まああてはまる 28 件 (52.8%)、あまりあてはまらない 7 件 (13.2%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%)、であった。高等学校は、とてもあてはまる 17 件 (20.5%)、まああてはまる 37 件 (44.6%)、あまりあてはまらない 27 件 (32.5%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.4%)、であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 29 件 (31.2%)、まああてはまる 43 件 (46.2%)、あまりあてはまらない 19 件 (20.4%)、まったくあてはまらない 2 件 (2.2%)、であった。

管理職の理解があれば、様々な研修が可能であるについて、小学校は、とてもあてはまる 22 件 (23.4%)、まああてはまる 52 件 (55.3%)、あまりあてはまらない 14 件 (14.9%)、まったくあてはまらない 5 件 (5.3%)、であった。中学校は、とてもあてはまる 21 件 (39.6%)、まああてはまる 23 件 (43.4%)、あまりあてはまらない 8 件 (15.1%)、まったくあてはまらない 1 件 (1.9%)、であった。高等学校は、とてもあてはまる 22 件 (26.5%)、まああてはまる 26 件 (31.3%)、あまりあてはまらない 28 件 (33.7%)、まったくあてはまらない 7 件 (8.4%)、であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 18 件 (19.4%)、まああてはまる 52 件 (55.9%)、あまりあてはまらない 20 件 (21.5%)、まったくあてはまらない 3 件 (3.2%) であった。

研修としても、もっとインターネットを活用したいについて、小学校は、とてもあてはまる 7 件 (7.4%)、まああてはまる 41 件 (43.6%)、あまりあてはまらない 39 件 (41.5%)、まったくあてはまらない 7 件 (7.4%)、であった。中学校は、とてもあてはまる 5 件 (9.4%)、まああてはまる 18 件 (34.0%)、あまりあてはまらない 27 件 (50.9%)、まったくあてはまらない 3 件 (5.7%)、であった。高等学校は、とてもあてはまる 7 件 (8.4%)、まああてはまる 19 件 (22.9%)、あまりあてはまらない 53 件 (63.9%)、まったくあてはまらない 4 件 (4.8%)、であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 8 件 (8.6%)、まああてはまる 35 件 (37.6%)、あまりあてはまらない 42 件 (45.2%)、まったくあてはまらない 8 件 (8.6%) であった。

出身養成校の教員と情報交換をしているについて、小学校は、とてもあてはまる 1 件 (1.1%)、まああてはまる 17 件 (18.1%)、あまりあてはまらない 30 件 (31.9%)、まったくあてはまらない 45 件 (47.9%) であった。中学校は、とてもあてはまる 3 件 (5.7%)、まああてはまる 10 件 (18.9%)、あまりあてはまらない 19 件 (35.8%)、まったくあてはま

らない 21 件 (39.6%)、であった。高等学校は、とてもあてはまる 4 件 (4.8%)、まああてはまる 9 件 (10.8%)、あまりあてはまらない 24 件 (28.9%)、まったくあてはまらない 46 件 (55.4%)、であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 6 件 (6.5%)、まああてはまる 9 件 (9.7%)、あまりあてはまらない 28 件 (30.1%)、まったくあてはまらない 50 件 (53.8%) であった。

教育委員会や教職員組合などの研修で十分であるについて、小学校は、とてもあてはまる 1 件 (1.1%)、まああてはまる 32 件 (34.0%)、あまりあてはまらない 52 件 (55.3%)、まったくあてはまらない 8 件 (8.5%)、であった。中学校は、とてもあてはまる 1 件 (1.9%)、まああてはまる 18 件 (34.0%)、あまりあてはまらない 26 件 (49.1%)、まったくあてはまらない 7 件 (13.2%) であった。高等学校は、とてもあてはまる 0 件 (0.0%)、まああてはまる 19 件 (22.9%)、あまりあてはまらない 57 件 (68.7%)、まったくあてはまらない 7 件 (8.4%)、であった。特別支援学校は、とてもあてはまる 2 件 (2.2%)、まああてはまる 23 件 (24.7%)、あまりあてはまらない 51 件 (54.8%)、まったくあてはまらない 17 件 (18.3%) であった。

表24. 少数職種の研修について

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差	小学校 中学校	小学校 高等学校	小学校 特別支援	中学校 高等学校	中学校 特別支援	高等学校 特別支援
1	日常の業務が忙しく、研修に参加しにくい	小学校	23	54	15	2	0	94	*	*	**	ns	ns	ns	ns
			24.5%	57.4%	16.0%	2.1%	0.0%	100.0%							
		中学校	8	26	17	2	0	53							
			15.1%	49.1%	32.1%	3.8%	0.0%	100.0%							
		高等学校	11	38	29	5	0	83							
			13.3%	45.8%	34.9%	6.0%	0.0%	100.0%							
		特別支援学校	22	43	27	1	0	93							
			23.7%	46.2%	29.0%	1.1%	0.0%	100.0%							
		未記入	1	0	0	0	0	1							
			100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%							
2	少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくい	小学校	30	47	15	2	0	94	*	ns	*	ns	**	ns	ns
			31.9%	50.0%	16.0%	2.1%	0.0%	100.0%							
		中学校	18	28	7	0	0	53							
			34.0%	52.8%	13.2%	0.0%	0.0%	100.0%							
		高等学校	17	37	27	2	0	83							
			20.5%	44.6%	32.5%	2.4%	0.0%	100.0%							
		特別支援学校	29	43	19	2	0	93							
			31.2%	46.2%	20.4%	2.2%	0.0%	100.0%							
		未記入	1	0	0	0	0	1							
			100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%							
3	管理職の理解があれば、様々な研修が可能である	小学校	22	52	14	5	1	94	*	ns	ns	ns	**	*	ns
			23.4%	55.3%	14.9%	5.3%	1.1%	100.0%							
		中学校	21	23	8	1	0	53							
			39.6%	43.4%	15.1%	1.9%	0.0%	100.0%							
		高等学校	22	26	28	7	0	83							
			26.5%	31.3%	33.7%	8.4%	0.0%	100.0%							
		特別支援学校	18	52	20	3	0	93							
			19.4%	55.9%	21.5%	3.2%	0.0%	100.0%							
		未記入	1	0	0	0	0	1							
			100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%							
4	研修としても、もっとインターネットを活用したい	小学校	7	41	39	7	0	94	ns						
			7.4%	43.6%	41.5%	7.4%	0.0%	100.0%							
		中学校	5	18	27	3	0	53							
			9.4%	34.0%	50.9%	5.7%	0.0%	100.0%							
		高等学校	7	19	53	4	0	83							
			8.4%	22.9%	63.9%	4.8%	0.0%	100.0%							
		特別支援学校	8	35	42	8	0	93							
			8.6%	37.6%	45.2%	8.6%	0.0%	100.0%							
		未記入	0	1	0	0	0	1							
			0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%							
5	出身養成学校の教員と情報交換をしている	小学校	1	17	30	45	1	94	ns						
			1.1%	18.1%	31.9%	47.9%	1.1%	100.0%							
		中学校	3	10	19	21	0	53							
			5.7%	18.9%	35.8%	39.6%	0.0%	100.0%							
		高等学校	4	9	24	46	0	83							
			4.8%	10.8%	28.9%	55.4%	0.0%	100.0%							
		特別支援学校	6	9	28	50	0	93							
			6.5%	9.7%	30.1%	53.8%	0.0%	100.0%							
		未記入	0	0	0	1	0	1							
			0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%							
	総計		14	45	101	163	1	324							
			4.3%	13.9%	31.2%	50.3%	0.3%	100.0%							

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差	小学校 中学校	小学校 高等学校	小学校 特別支援	中学校 高等学校	中学校 特別支援	高等学校 特別支援
6	教育委員会や教職員組合などの研修で十分である	小学校	1	32	52	8	1	94	ns						
			1.1%	34.0%	55.3%	8.5%	1.1%	100.0%							
		中学校	1	18	26	7	1	53							
			1.9%	34.0%	49.1%	13.2%	1.9%	100.0%							
		高等学校	0	19	57	7	0	83							
			0.0%	22.9%	68.7%	8.4%	0.0%	100.0%							
		特別支援学校	2	23	51	17	0	93							
			2.2%	24.7%	54.8%	18.3%	0.0%	100.0%							
		未記入	0	0	0	1	0	1							
		未記入	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%							
		総計	4	92	188	40	2	324							
		総計	1.2%	28.4%	57.4%	12.3%	0.6%	100.0%							

5) 研修に関する意識について

現職校種区分の研修に関する意識についての比較の結果を表 20 に示した。

参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがあるとした回答は、小学校 42 件 (44.7%)、中学校 32 件 (60.4%)、高等学校 44 件 (53.0%)、特別支援学校 51 件 (54.8%) であった。研修で得た良い情報は、校内で共有しているとした回答は、小学校 50 件 (53.2%)、中学校 38 件 (71.7%)、高等学校 46 件 (55.4%)、特別支援学校 57 件 (61.3%) であった。参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しないとした回答は、小学校 28 件 (29.8%)、中学校 10 件 (18.9%)、高等学校 23 件 (27.7%)、特別支援学校 17 件 (18.3%) であった。平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しないとした回答は、小学校 27 件 (28.7%)、中学校 7 件 (13.2%)、高等学校 11 件 (13.3%)、特別支援学校 37 件 (39.8%) であった。自ら実践体験できる研修を選んで参加したとした回答は、小学校 32 件 (34.0%)、中学校 12 件 (22.6%)、高等学校 27 件 (32.5%)、特別支援学校 25 件 (26.9%) であった。新たな知識を得られる講話は好きであるとした回答は、小学校 87 件 (92.6%)、中学校 50 件 (94.3%)、高等学校 75 件 (90.4%)、特別支援学校 88 件 (94.6%) であった。インターネットを活用して情報を得るようにしているとした回答は、小学校 32 件 (34.0%)、中学校 20 件 (37.7%)、高等学校 39 件 (47.0%)、特別支援学校 43 件 (46.2%) であった。専門誌、専門書から情報を得るようにしているとした回答は、小学校 48 件 (51.1%)、中学校 35 件 (66.0%)、高等学校 55 件 (66.3%)、特別支援学校 54 件 (58.1%) であった。他職種の方々が講師の研修に参加したいとした回答は、小学校 26 件 (27.7%)、中学校 14 件 (26.4%)、高等学校 33 件 (39.8%)、特別支援学校 31 件 (33.3%) であった。専門家の集まる学会に参加するのは気後れするとした回答は、小学校 18 件 (19.1%)、中学校 9 件 (17.0%)、高等学校 14 件 (16.9%)、特別支援学校 17 件 (18.3%) であった。

表25. 研修に関する意識について

No.	設問	行ラベル	はい	いいえ	総計	有意差	小学校 中学校	小学校 高等学校	小学校 特別支援	中学校 高等学校	中学校 特別支援	高等学校 特別支援
1	参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがある	小学校	42	52	94	ns						
			44.7%	55.3%	100.0%							
		中学校	32	21	53							
			60.4%	39.6%	100.0%							
		高等学校	44	39	83							
			53.0%	47.0%	100.0%							
		特別支援学校	51	42	93							
			54.8%	45.2%	100.0%							
		未記入	1	0	1							
		未記入	100.0%	0.0%	100.0%							
		総計	170	154	324							
		総計	52.5%	47.5%	100.0%							

No.	設問	行ラベル	はい	いいえ	総計	有意差	小学校 中学校	小学校 高等学校	小学校 特別支援	中学校 高等学校	中学校 特別支援	高等学校 特別支援
2	研修で得た良い情報は、校内で共有している	小学校	50	44	94	ns						
			53.2%	46.8%	100.0%							
		中学校	38	15	53							
			71.7%	28.3%	100.0%							
		高等学校	46	37	83							
			55.4%	44.6%	100.0%							
		特別支援学校	57	36	93							
			61.3%	38.7%	100.0%							
3	参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しない	小学校	0	1	1	ns						
			0.0%	100.0%	100.0%							
		中学校	191	133	324							
			59.0%	41.0%	100.0%							
		高等学校	28	66	94							
			29.8%	70.2%	100.0%							
		特別支援学校	10	43	53							
			18.9%	81.1%	100.0%							
4	平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しない	小学校	23	60	83	*	*	*	ns	ns	***	***
			27.7%	72.3%	100.0%							
		中学校	17	76	93							
			18.3%	81.7%	100.0%							
		高等学校	0	1	1							
			0.0%	100.0%	100.0%							
		特別支援学校	78	246	324							
			24.1%	75.9%	100.0%							
5	自ら実践体験できる研修を選んで参加した	小学校	27	67	94	ns	小学校	小学校		特別支援	特別支援	
			28.7%	71.3%	100.0%							
		中学校	7	46	53							
			13.2%	86.8%	100.0%							
		高等学校	11	72	83							
			13.3%	86.7%	100.0%							
		特別支援学校	37	56	93							
			39.8%	60.2%	100.0%							
6	新たな知識を得られる講話は好きである	小学校	0	1	1	ns	小学校	小学校		特別支援	特別支援	
			0.0%	100.0%	100.0%							
		中学校	82	242	324							
			25.3%	74.7%	100.0%							
		高等学校	32	62	94							
			34.0%	66.0%	100.0%							
		特別支援学校	12	41	53							
			22.6%	77.4%	100.0%							
7	インターネットを活用して情報を得るようにしている	小学校	27	56	83	ns	小学校	小学校		特別支援	特別支援	
			32.5%	67.5%	100.0%							
		中学校	25	68	93							
			26.9%	73.1%	100.0%							
		高等学校	0	1	1							
			0.0%	100.0%	100.0%							
		特別支援学校	96	228	324							
			29.6%	70.4%	100.0%							
8	専門誌、専門書から情報を得ようとしている	小学校	87	7	94	ns	小学校	小学校		特別支援	特別支援	
			92.6%	7.4%	100.0%							
		中学校	50	3	53							
			94.3%	5.7%	100.0%							
		高等学校	75	8	83							
			90.4%	9.6%	100.0%							
		特別支援学校	88	5	93							
			94.6%	5.4%	100.0%							

No.	設問	行ラベル	はい	いいえ	総計	有意差	小学校 中学校	小学校 高等学校	小学校 特別支援	中学校 高等学校	中学校 特別支援	高等学校 特別支援
9	他職種の方々が講師の研修に参加したい	小学校	26	68	94	ns						
			27.7%	72.3%	100.0%							
		中学校	14	39	53							
			26.4%	73.6%	100.0%							
		高等学校	33	50	83							
			39.8%	60.2%	100.0%							
		特別支援学校	31	62	93							
			33.3%	66.7%	100.0%							
10	専門家の集まる学会に参加するのは気後れする	未記入	1	0	1	ns						
			100.0%	0.0%	100.0%							
		総計	105	219	324							
			32.4%	67.6%	100.0%							
		小学校	18	76	94							
			19.1%	80.9%	100.0%							
		中学校	9	44	53							
			17.0%	83.0%	100.0%							
		高等学校	14	69	83							
			16.9%	83.1%	100.0%							
		特別支援学校	17	76	93							
			18.3%	81.7%	100.0%							
		未記入	0	1	1							
			0.0%	100.0%	100.0%							
		総計	58	266	324							
			17.9%	82.1%	100.0%							

(4) 発表経験区分比較

1) 後輩に紹介したい講演会の有無

発表経験有無による後輩に紹介したい講演会の有無の結果を表 26 に示した。発表経験ありにおいては、たくさんある 12 件 (12.7%)、まずまずある 102 件 (61.4%)、あまりない 28 件 (16.9%)、まったくない 2 件 (1.2%) であった。発表経験なしにおいては、たくさんある 12 件 (7.6%)、まずまずある 106 件 (67.1%)、あまりない 26 件 (16.5%)、まったくない 3 件 (1.9%) であった。

表26. 後輩に紹介したい講演会の有無

No.	群	たくさん ある	まずまず ある	あまりない	まったく ない	未記入	総計	有意差
1	発表経験あり	21	102	28	2	13	166	ns
		12.7%	61.4%	16.9%	1.2%	7.8%	100.0%	
	発表経験なし	12	106	26	3	11	158	
		7.6%	67.1%	16.5%	1.9%	7.0%	100.0%	
	総計	33	208	54	5	24	324	
		10.2%	64.2%	16.7%	1.5%	7.4%	100.0%	

2) これまでに参加した研修での感想

発表経験有無によるこれまでに参加した研修での感想の結果を表 27 に示した。有益な情報を収集できたについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 65 件 (39.2%)、まああてはまる 92 件 (55.4%)、あまりあてはまらない 7 件 (4.2%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 60 件 (38.0%)、まああてはまる 95 件 (60.1%)、あまりあてはまらない 2 件 (1.3%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。

知的好奇心が刺激されたについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 50 件 (30.1%)、まああてはまる 95 件 (57.2%)、あまりあてはまらない 16 件 (9.6%)、まったくあてはまらない 2 件 (1.2%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 52 件 (32.9%)、まああてはまる 91 件 (57.6%)、あまりあてはまらない 14 件 (8.9%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。

時間のわりに得られるものが少なかったについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 5 件 (3.0%)、まああてはまる 35 件 (21.1%)、あまりあてはまらない 108 件 (65.1%)、

まったくあてはまらない 16 件 (9.6%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 6 件 (3.8%)、まああてはまる 41 件 (25.9%)、あまりあてはまらない 98 件 (62.0%)、まったくあてはまらない 12 件 (7.6%) であった。

人的ネットワークを構築できたについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 18 件 (10.8%)、まああてはまる 67 件 (40.4%)、あまりあてはまらない 70 件 (42.2%)、まったくあてはまらない 9 件 (5.4%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 9 件 (5.7%)、まああてはまる 53 件 (33.5%)、あまりあてはまらない 84 件 (53.2%)、まったくあてはまらない 11 件 (7.0%) であった。

最新情報や先進事例から触発を受けたについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 45 件 (27.1%)、まああてはまる 98 件 (59.0%)、あまりあてはまらない 18 件 (10.8%)、まったくあてはまらない 3 件 (1.8%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 28 件 (17.7%)、まああてはまる 104 件 (65.8%)、あまりあてはまらない 24 件 (15.2%)、まったくあてはまらない 1 件 (0.6%) であった。

日常業務から解放され、リフレッシュできたについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 26 件 (15.7%)、まああてはまる 78 件 (47.0%)、あまりあてはまらない 50 件 (30.1%)、まったくあてはまらない 10 件 (6.0%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 28 件 (17.7%)、まああてはまる 85 件 (53.8%)、あまりあてはまらない 35 件 (22.2%)、まったくあてはまらない 9 件 (5.7%) であった。

専門知識・技能を獲得できたについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 55 件 (33.1%)、まああてはまる 99 件 (59.6%)、あまりあてはまらない 10 件 (6.0%)、まったくあてはまらない 0 件 (0.0%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 48 件 (30.4%)、まああてはまる 101 件 (63.9%)、あまりあてはまらない 7 件 (4.4%)、まったくあてはまらない 1 件 (0.6%) であった。

自らの教育実践にはあまり役立たなかったについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 0 件 (0.0%)、まああてはまる 20 件 (12.0%)、あまりあてはまらない 98 件 (59.0%)、まったくあてはまらない 46 件 (27.7%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 2 件 (1.3%)、まああてはまる 15 件 (9.5%)、あまりあてはまらない 112 件 (70.9%)、まったくあてはまらない 28 件 (17.7%) であった。

表27. 研修に参加した感想

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差
1	有益な情報を収集できた	発表経験あり	65	92	7	0	2	166	ns
			39.2%	55.4%	4.2%	0.0%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	60	95	2	0	1	158	
			38.0%	60.1%	1.3%	0.0%	0.6%	100.0%	
		総計	125	187	9	0	3	324	
2	知的好奇心が刺激された	発表経験あり	50	95	16	2	3	166	ns
			30.1%	57.2%	9.6%	1.2%	1.8%	100.0%	
		発表経験なし	52	91	14	0	1	158	
			32.9%	57.6%	8.9%	0.0%	0.6%	100.0%	
		総計	102	186	30	2	4	324	
			31.5%	57.4%	9.3%	0.6%	1.2%	100.0%	

No.	設問	群	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	未記入	総計	有意差
3	時間のわりに 得られるもの が少なかった	発表経験あり	5	35	108	16	2	166	ns
			3.0%	21.1%	65.1%	9.6%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	6	41	98	12	1	158	
			3.8%	25.9%	62.0%	7.6%	0.6%	100.0%	
		総計	11	76	206	28	3	324	
4	人的ネットワー クを構築できた	発表経験あり	18	67	70	9	2	166	*
			10.8%	40.4%	42.2%	5.4%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	9	53	84	11	1	158	
			5.7%	33.5%	53.2%	7.0%	0.6%	100.0%	
		総計	27	120	154	20	3	324	
5	最新情報や先 進事例から触 発を受けた	発表経験あり	45	98	18	3	2	166	ns
			27.1%	59.0%	10.8%	1.8%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	28	104	24	1	1	158	
			17.7%	65.8%	15.2%	0.6%	0.6%	100.0%	
		総計	73	202	42	4	3	324	
6	日常業務から 解放され、リフ レッシュできた	発表経験あり	26	78	50	10	2	166	ns
			15.7%	47.0%	30.1%	6.0%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	28	85	35	9	1	158	
			17.7%	53.8%	22.2%	5.7%	0.6%	100.0%	
		総計	54	163	85	19	3	324	
7	専門知識・技 能を獲得でき た	発表経験あり	55	99	10	0	2	166	ns
			33.1%	59.6%	6.0%	0.0%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	48	101	7	1	1	158	
			30.4%	63.9%	4.4%	0.6%	0.6%	100.0%	
		総計	103	200	17	1	3	324	
8	自らの教育実 践にはあまり 役立たなかつ た	発表経験あり	0	20	98	46	2	166	ns
			0.0%	12.0%	59.0%	27.7%	1.2%	100.0%	
		発表経験なし	2	15	112	28	1	158	
			1.3%	9.5%	70.9%	17.7%	0.6%	100.0%	
		総計	2	35	210	74	3	324	

3) 少数職種の研修について

発表経験有無による少数職種の研修に対する意識についての比較の結果を表 28 に示した。日常の業務が忙しく、研修に参加しにくいについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 33 件 (19.9%)、まああてはまる 90 件 (54.2%)、あまりあてはまらない 36 件 (21.7%)、まったくあてはまらない 7 件 (4.2%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 32 件 (20.3%)、まああてはまる 71 件 (44.9%)、あまりあてはまらない 52 件 (32.9%)、まったくあてはまらない 3 件 (1.9%) であった。

少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくいについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 47 件 (28.3%)、まああてはまる 77 件 (46.4%)、あまりあてはまらない 38 件 (22.9%)、まったくあてはまらない 4 件 (2.4%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 48 件 (30.4%)、まああてはまる 78 件 (49.4%)、あまりあてはまらない 30 件 (19.0%)、まったくあてはまらない 2 件 (1.3%) であった。

管理職の理解があれば、様々な研修が可能であるについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 50 件 (30.1%)、まああてはまる 68 件 (41.0%)、あまりあてはまらない 38 件 (22.9%)、まったくあてはまらない 9 件 (5.4%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 34 件 (21.5%)、まああてはまる 85 件 (53.8%)、あまりあてはまらない 32 件 (20.3%)、まったくあてはまらない 7 件 (4.4%) であった。

研修としても、もっとインターネットを活用したいについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 14 件 (8.4%)、まああてはまる 52 件 (31.3%)、あまりあてはまらない 91 件 (54.8%)、まったくあてはまらない 9 件 (5.4%) であった。発表経験なしは、とてもあて

はまる 13 件(8.2%)、まああてはまる 62 件(39.2%)、あまりあてはまらない 70 件(44.3%)、まったくあてはまらない 13 件 (8.2%) であった。

出身養成校の教員と情報交換をしているについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 8 件 (4.8%)、まああてはまる 24 件 (14.5%)、あまりあてはまらない 48 件 (28.9%)、まったくあてはまらない 85 件 (51.2%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 6 件 (3.8%)、まああてはまる 21 件 (13.3%)、あまりあてはまらない 53 件 (33.5%)、まったくあてはまらない 78 件 (49.4%) であった。

教育委員会や教職員組合などの研修で十分であるについて、発表経験ありは、とてもあてはまる 2 件(1.2%)、まああてはまる 45 件(27.1%)、あまりあてはまらない 94 件(56.6%)、まったくあてはまらない 24 件 (14.5%) であった。発表経験なしは、とてもあてはまる 2 件 (1.3%)、まああてはまる 47 件 (29.7%)、あまりあてはまらない 92 件 (58.2%)、まったくあてはまらない 16 件 (10.1%) であった。

表28. 少数職種への研修について

No.	設問	群	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	未記入	総計	有意差
1	日常の業務が忙しく、研修に参加しにくい	発表経験あり	33	90	36	7	0	166	ns
			19.9%	54.2%	21.7%	4.2%	0.0%	100.0%	
		発表経験なし	32	71	52	3	0	158	
			20.3%	44.9%	32.9%	1.9%	0.0%	100.0%	
		総計	65	161	88	10	0	324	
2	少数職種なので勤務校で他者と悩みを共有しにくい	発表経験あり	47	77	38	4	0	166	ns
			28.3%	46.4%	22.9%	2.4%	0.0%	100.0%	
		発表経験なし	48	78	30	2	0	158	
			30.4%	49.4%	19.0%	1.3%	0.0%	100.0%	
		総計	95	155	68	6	0	324	
3	管理職の理解があれば、様々な研修が可能である	発表経験あり	50	68	38	9	1	166	ns
			30.1%	41.0%	22.9%	5.4%	0.6%	100.0%	
		発表経験なし	34	85	32	7	0	158	
			21.5%	53.8%	20.3%	4.4%	0.0%	100.0%	
		総計	84	153	70	16	1	324	
4	研修としても、もっとインターネットを活用したい	発表経験あり	14	52	91	9	0	166	ns
			8.4%	31.3%	54.8%	5.4%	0.0%	100.0%	
		発表経験なし	13	62	70	13	0	158	
			8.2%	39.2%	44.3%	8.2%	0.0%	100.0%	
		総計	27	114	161	22	0	324	
5	出身養成校の教員と情報交換をしている	発表経験あり	8	24	48	85	1	166	ns
			4.8%	14.5%	28.9%	51.2%	0.6%	100.0%	
		発表経験なし	6	21	53	78	0	158	
			3.8%	13.3%	33.5%	49.4%	0.0%	100.0%	
		総計	14	45	101	163	1	324	
6	教育委員会や教職員組合などの研修で十分である	発表経験あり	2	45	94	24	1	166	ns
			1.2%	27.1%	56.6%	14.5%	0.6%	100.0%	
		発表経験なし	2	47	92	16	1	158	
			1.3%	29.7%	58.2%	10.1%	0.6%	100.0%	
		総計	4	92	186	40	2	324	
			1.2%	28.4%	57.4%	12.3%	0.6%	100.0%	

4) 研修に関する意識について

発表経験有無による研修に関する意識についての比較の結果を表 29 に示した。参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがあるとした回答は、発表経験あり 108 件 (65.1%)、発表経験なし 62 件 (39.2%) であった。研修で得た良い情報は、校内で共有しているとした回答は、発表経験あり 106 件 (63.9%)、発表経験なし 85 件 (53.8%) であった。参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しないとした回答は、発表経験あり 31 件 (18.7%)、発表経験なし 47 件 (29.7%) であった。平日は、業務の都合で校外研修はでき

るだけ参加しないとした回答は、発表経験あり 46 件(27.7%)、発表経験なし 36 件(22.8%)であった。自ら実践体験できる研修を選んで参加したとした回答は、発表経験あり 50 件(30.1%)、発表経験なし 46 件(29.1%)であった。新たな知識を得られる講話は好きであるとした回答は、発表経験あり 151 件(91.0%)、発表経験なし 150 件(94.9%)であった。インターネットを活用して情報を得るようにしているとした回答は、発表経験あり 78 件(47.0%)、発表経験なし 56 件(35.4%)であった。専門誌、専門書から情報を得るようにしているとした回答は、発表経験あり 106 件(63.9%)、発表経験なし 87 件(55.1%)であった。他職種の方々が講師の研修に参加したいとした回答は、発表経験あり 52 件(31.3%)、発表経験なし 53 件(33.5%)であった。専門家の集まる学会に参加するのは気後れするとした回答は、発表経験あり 30 件(18.1%)、発表経験なし 28 件(17.7%)であった。

表29. 研修に関する意識について

No.	設問	群	はい	いいえ	総計	有意差
1	参加したい研修には、遠隔地でも参加したことがある	発表経験あり	108	58	166	***
			65.1%	34.9%	100.0%	
		発表経験なし	62	96	158	
			39.2%	60.8%	100.0%	
		総計	170	154	324	
			52.5%	47.5%	100.0%	
		発表経験あり	106	60	166	ns
			63.9%	36.1%	100.0%	
2	研修で得た良い情報は、校内で共有している	発表経験なし	85	73	158	
			53.8%	46.2%	100.0%	
		総計	191	133	324	
			59.0%	41.0%	100.0%	
3	参加費・交通費が私費の研修は、できるだけ参加しない	発表経験あり	31	135	166	*
			18.7%	81.3%	100.0%	
		発表経験なし	47	111	158	
			29.7%	70.3%	100.0%	
		総計	78	246	324	
			24.1%	75.9%	100.0%	
4	平日は、業務の都合で校外研修はできるだけ参加しない	発表経験あり	46	120	166	ns
			27.7%	72.3%	100.0%	
		発表経験なし	36	122	158	
			22.8%	77.2%	100.0%	
		総計	82	242	324	
			25.3%	74.7%	100.0%	
5	自ら実践体験できる研修を選んだ	発表経験あり	50	116	166	ns
			30.1%	69.9%	100.0%	
		発表経験なし	46	112	158	
			29.1%	70.9%	100.0%	
		総計	96	228	324	
			29.6%	70.4%	100.0%	
6	新たな知識を得られる講話は好きである	発表経験あり	151	15	166	ns
			91.0%	9.0%	100.0%	
		発表経験なし	150	8	158	
			94.9%	5.1%	100.0%	
		総計	301	23	324	
			92.9%	7.1%	100.0%	

No.	設問	群	はい	いいえ	総計	有意差
7	インターネットを活用して情報を得ようとしている	発表経験あり	78	88	166	*
			47.0%	53.0%	100.0%	
		発表経験なし	56	102	158	
			35.4%	64.6%	100.0%	
		総計	134	190	324	
8	専門誌、専門書から情報を得ようとしている	発表経験あり	106	60	166	ns
			63.9%	36.1%	100.0%	
		発表経験なし	87	71	158	
			55.1%	44.9%	100.0%	
		総計	193	131	324	
9	他職種の方々が講師の研修に参加したい	発表経験あり	52	114	166	ns
			31.3%	68.7%	100.0%	
		発表経験なし	53	105	158	
			33.5%	66.5%	100.0%	
		総計	105	219	324	
10	専門家の集まる学会に参加するのは気後れする	発表経験あり	30	136	166	ns
			18.1%	81.9%	100.0%	
		発表経験なし	28	130	158	
			17.7%	82.3%	100.0%	
		総計	58	266	324	
			17.9%	82.1%	100.0%	

（５）職種区分比較

１）これまでに受けた研修テーマ

職種区分別のこれまでに受けた研修テーマについての比較の結果を表 35 に示した。

学校事故については、栄養教諭 8 件（17.4％）養護教諭 197 件（70.9％）であった。食育については、栄養教諭 44 件（95.7％）養護教諭 140 件（50.4％）であった。環境衛生については、栄養教諭 11 件（23.9％）養護教諭 167 件（60.1％）であった。相談活動については、栄養教諭 6 件（13.0％）養護教諭 216 件（77.7％）であった。衛生管理については、栄養教諭 44 件（95.7％）養護教諭 139 件（50.0％）であった。生産者、地域の方々とのネットワークについては、栄養教諭 19 件（41.3％）養護教諭 26 件（9.4％）であった。アレルギーについては、栄養教諭 42 件（91.3％）養護教諭 253 件（91.0％）であった。保健室経営については、栄養教諭 0 件（0.0％）養護教諭 190 件（68.3％）であった。救急処置については、栄養教諭 8 件（17.4％）養護教諭 242 件（87.1％）であった。性の多様性（L G B T 含む）については、栄養教諭 4 件（8.7％）養護教諭 220 件（79.1％）であった。保健指導・栄養指導などの指導案については、栄養教諭 31 件（67.4％）養護教諭 152 件（54.7％）であった。性教育、いのちの教育については、栄養教諭 2 件（4.3％）養護教諭 215 件（77.3％）であった。感染症については、栄養教諭 6 件（13.0％）養護教諭 207 件（74.5％）であった。精神障がいについては、栄養教諭 3 件（6.5％）養護教諭 168 件（60.4％）であった。生活習慣病については、栄養教諭 21 件（45.7％）養護教諭 162 件（58.3％）であった。児童虐待については、栄養教諭 1 件（2.2％）養護教諭 186 件（66.9％）であった。I C T（タブレットなど）の活用方法については、栄養教諭 11 件（23.9％）養護教諭 84 件（30.2％）であった。防災・災害対応については、栄養教諭 14 件（30.4％）養護教諭 163 件（58.6％）

であった。

7) これから受けた研修テーマ

職種区分別のこれから受けた研修テーマについての比較の結果を表 35 に示した。

学校事故については、栄養教諭 8 件（17.4%）養護教諭 155 件（55.8%）であった。食育については、栄養教諭 43 件（93.5%）養護教諭 73 件（26.3%）であった。環境衛生については、栄養教諭 7 件（15.2%）養護教諭 70 件（25.2%）であった。相談活動については、栄養教諭 11 件（23.9%）養護教諭 172 件（61.9%）であった。衛生管理については、栄養教諭 40 件（87.0%）養護教諭 66 件（23.7%）であった。生産者、地域の方々とのネットワークについては、栄養教諭 28 件（60.9%）養護教諭 27 件（9.7%）であった。アレルギーについては、栄養教諭 38 件（82.6%）養護教諭 151 件（54.3%）であった。保健室経営については、栄養教諭 0 件（0.0%）養護教諭 154 件（55.4%）であった。救急処置については、栄養教諭 7 件（15.2%）養護教諭 202 件（72.7%）であった。性の多様性（LGBT含む）については、栄養教諭 3 件（6.5%）養護教諭 167 件（60.1%）であった。保健指導・栄養指導などの指導案については、栄養教諭 30 件（65.2%）養護教諭 151 件（54.3%）であった。性教育、いのちの教育については、栄養教諭 3 件（6.5%）養護教諭 171 件（61.5%）であった。感染症については、栄養教諭 9 件（19.6%）養護教諭 133 件（47.8%）であった。精神障がいについては、栄養教諭 6 件（13.0%）養護教諭 140 件（50.4%）であった。生活習慣病については、栄養教諭 32 件（69.6%）養護教諭 111 件（39.9%）であった。児童虐待については、栄養教諭 3 件（6.5%）養護教諭 124 件（44.6%）であった。ICT（タブレットなど）の活用方法については、栄養教諭 18 件（39.1%）養護教諭 85 件（30.6%）であった。防災・災害対応については、栄養教諭 19 件（41.3%）養護教諭 120 件（43.2%）であった。

表30. これまでに受けた研修テーマとこれから受けた研修テーマ

No.	設問	群	これまでの研修・講演会				今後の研修・講演会				
			受講した	受講していない	総計	有意差	受講したい	受講したくない	未記入	総計	有意差
1	学校事故	栄養教諭	8	38	46	***	8	38	0	46	***
			17.4%	82.6%	100%		17.4%	82.6%	0.0%	100.0%	
		養護教諭	197	81	278		155	121	2	278	
			70.9%	29.1%	100%		55.8%	43.5%	0.7%	100%	
		総計	205	119	324		163	159	2	324	
			63.3%	36.7%	100%		50.3%	49.1%	0.6%	100%	
2	食育	栄養教諭	44	2	46	***	43	3	0	46	***
			95.7%	4.3%	100%		93.5%	6.5%	0.0%	100%	
		養護教諭	140	138	278		73	205	0	278	
			50.4%	49.6%	100%		26.3%	73.7%	0.0%	100%	
		総計	184	140	324		116	208	0	324	
			56.8%	43.2%	100%		35.8%	64.2%	0.0%	100%	
3	環境衛生	栄養教諭	11	35	46	***	7	39	0	46	ns
			23.9%	76.1%	100%		15.2%	84.8%	0.0%	100%	
		養護教諭	167	111	278		70	208	0	278	
			60.1%	39.9%	100%		25.2%	74.8%	0.0%	100%	
		総計	178	146	324		77	247	0	324	
			54.9%	45.1%	100%		23.8%	76.2%	0.0%	100%	
4	相談活動	栄養教諭	6	40	46	***	11	35	0	46	***
			13.0%	87.0%	100%		23.9%	76.1%	0.0%	100%	
		養護教諭	216	62	278		172	106	0	278	
			77.7%	22.3%	100%		61.9%	38.1%	0.0%	100%	
		総計	222	102	324		183	141	0	324	
			68.5%	31.5%	100%		56.5%	43.5%	0.0%	100%	
5	衛生管理	栄養教諭	44	2	46	***	40	6	0	46	***
			95.7%	4.3%	100%		87.0%	13.0%	0.0%	100%	
		養護教諭	139	139	278		66	212	0	278	
			50.0%	50.0%	100%		23.7%	76.3%	0.0%	100%	
		総計	183	141	324		106	218	0	324	
			56.5%	43.5%	100%		32.7%	67.3%	0.0%	100%	

No.	設問	群	これまでの研修・講演会				今後の研修・講演会				
			受講した	受講していない	総計	有意差	受講したい	受講したくない	未記入	総計	有意差
6	生産者、地域の方々とのネットワーク	栄養教諭	19	27	46	***	28	18	0	46	***
			41.3%	58.7%	100%		60.9%	39.1%	0.0%	100%	
		養護教諭	26	252	278		27	251	0	278	
			9.4%	90.6%	100%		9.7%	90.3%	0.0%	100%	
		総計	45	279	324		55	269	0	324	
			13.9%	86.1%	100%		17.0%	83.0%	0.0%	100%	
7	アレルギー	栄養教諭	42	4	46	ns	38	8	0	46	***
			91.3%	8.7%	100%		82.6%	17.4%	0.0%	100%	
		養護教諭	253	25	278		151	127	0	278	
			91.0%	9.0%	100%		54.3%	45.7%	0.0%	100%	
		総計	295	29	324		189	135	0	324	
			91.0%	9.0%	100%		58.3%	41.7%	0.0%	100%	
8	保健室経営	栄養教諭	0	46	46	***	0	46	0	46	***
			0.0%	100.0%	100%		0.0%	100.0%	0.0%	100%	
		養護教諭	190	88	278		154	124	0	278	
			68.3%	31.7%	100%		55.4%	44.6%	0.0%	100%	
		総計	190	134	324		154	170	0	324	
			58.6%	41.4%	100%		47.5%	52.5%	0.0%	100%	
9	救急処置	栄養教諭	8	38	46	***	7	39	0	46	***
			17.4%	82.6%	100%		15.2%	84.8%	0.0%	100%	
		養護教諭	242	36	278		202	76	0	278	
			87.1%	12.9%	100%		72.7%	27.3%	0.0%	100%	
		総計	250	74	324		209	115	0	324	
			77.2%	22.8%	100%		64.5%	35.5%	0.0%	100%	
10	性の多様性(LGBT含む)	栄養教諭	4	42	46	***	3	43	0	46	***
			8.7%	91.3%	100%		6.5%	93.5%	0.0%	100%	
		養護教諭	220	58	278		167	111	0	278	
			79.1%	20.9%	100%		60.1%	39.9%	0.0%	100%	
		総計	224	100	324		170	154	0	324	
			69.1%	30.9%	100%		52.5%	47.5%	0.0%	100%	
11	保健指導・栄養指導などの指導案	栄養教諭	31	15	46	ns	30	16	0	46	ns
			67.4%	32.6%	100%		65.2%	34.8%	0.0%	100%	
		養護教諭	152	126	278		151	127	0	278	
			54.7%	45.3%	100%		54.3%	45.7%	0.0%	100%	
		総計	183	141	324		181	143	0	324	
			56.5%	43.5%	100%		55.9%	44.1%	0.0%	100%	
12	性教育、いのちの教育	栄養教諭	2	44	46	***	3	43	0	46	***
			4.3%	95.7%	100%		6.5%	93.5%	0.0%	100%	
		養護教諭	215	63	278		171	107	0	278	
			77.3%	22.7%	100%		61.5%	38.5%	0.0%	100%	
		総計	217	107	324		174	150	0	324	
			67.0%	33.0%	100%		53.7%	46.3%	0.0%	100%	
13	感染症	栄養教諭	6	40	46	***	9	37	0	46	***
			13.0%	87.0%	100%		19.6%	80.4%	0.0%	100%	
		養護教諭	207	71	278		133	145	0	278	
			74.5%	25.5%	100%		47.8%	52.2%	0.0%	100%	
		総計	213	111	324		142	182	0	324	
			65.7%	34.3%	100%		43.8%	56.2%	0.0%	100%	
14	精神障がい	栄養教諭	3	43	46	***	6	40	0	46	***
			6.5%	93.5%	100%		13.0%	87.0%	0.0%	100%	
		養護教諭	168	110	278		140	138	0	278	
			60.4%	39.6%	100%		50.4%	49.6%	0.0%	100%	
		総計	171	153	324		146	178	0	324	
			52.8%	47.2%	100%		45.1%	54.9%	0.0%	100%	
15	生活習慣病	栄養教諭	21	25	46	ns	32	14	0	46	***
			45.7%	54.3%	100%		69.6%	30.4%	0.0%	100%	
		養護教諭	162	116	278		111	167	0	278	
			58.3%	41.7%	100%		39.9%	60.1%	0.0%	100%	
		総計	183	141	324		143	181	0	324	
			56.5%	43.5%	100%		44.1%	55.9%	0.0%	100%	
16	児童虐待	栄養教諭	1	45	46	***	3	43	0	46	***
			2.2%	97.8%	100%		6.5%	93.5%	0.0%	100%	
		養護教諭	186	92	278		124	154	0	278	
			66.9%	33.1%	100%		44.6%	55.4%	0.0%	100%	
		総計	187	137	324		127	197	0	324	
			57.7%	42.3%	100%		39.2%	60.8%	0.0%	100%	
17	ICT(タブレットなど)の活用方法	栄養教諭	11	35	46	ns	18	28	0	46	ns
			23.9%	76.1%	100%		39.1%	60.9%	0.0%	100%	
		養護教諭	84	194	278		85	193	0	278	
			30.2%	69.8%	100%		30.6%	69.4%	0.0%	100%	
		総計	95	229	324		103	221	0	324	
			29.3%	70.7%	100%		31.8%	68.2%	0.0%	100%	
18	防災・災害対応	栄養教諭	14	32	46	***	19	27	0	46	ns
			30.4%	69.6%	100%		41.3%	58.7%	0.0%	100%	
		養護教諭	163	115	278		120	158	0	278	
			58.6%	41.4%	100%		43.2%	56.8%	0.0%	100%	
		総計	177	147	324		139	185	0	324	
			54.6%	45.4%	100%		42.9%	57.1%	0.0%	100%	

5. 考察

(1) 年齢区分別比較の結果から

本調査の結果より、年齢区分別の比較を行うと、20 歳代は、発表経験が少なく、遠隔地で行われている研修には参加できていなく、そして、私費の研修には参加できていない現状

が明らかになった。さらに、20 歳代は専門誌や専門書から情報を得る機会が少ないことも明らかになった。

2015 年に出された中央教育審議会の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」¹⁾において、近年の教員の大量退職、大量採用の影響等により、教員の経験年数の均衡が顕著に崩れ始め、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図ることのできない状況であると述べられている。特に少数職種とされる栄養教諭および養護教諭については、初任者研修の対象に入っていない。（実際、新規採用者に対しては、現代的課題への対応や個々の事例に対応できる能力を身に付けるための基礎研修及び専門研修をおおむね 27 日間実施されている）²⁾ 養護教諭においては、養成段階にて教職に関する科目や養護教諭の専門についての科目等さまざまな講義や演習を受講し、さらに実際の学校現場での実習についても 1 種においては 4 週間実施することとなっている。時代の変化により養護教諭に求められる資質や技術にも大きな変化が見られている。1997 年の保健体育審議会の答申³⁾にて養護教諭の新たな役割としてこころと体の両面への対応を行う健康相談活動（ヘルスカウンセリング）の重要性が示された。その中で養護教諭の資質として、判断力、対応力、企画力、実行力、調整能力などが重視された。さらに養護教諭は 3 年以上の勤務にて保健教科の領域に関わる事項の教授を担当する教諭もしくは講師になることが出来るようになってきている。また、学校保健安全法⁴⁾の改正により養護教諭が行う保健指導についても明文化されている。つまり、養護教諭は学校保健における保健管理の分野のみならず保健学習や保健指導からなる保健教育の中心的な存在としてその存在感を増している。また、現在の子どもの健康課題は多様化・複雑化してきており、養護教諭の役割也多岐にわたっている。養成校を卒業し、養護教諭免許を取得したとしても児童生徒の多種多様な健康課題に対応していくことは困難であることは想像に難くない。であるから、採用後の研修を計画的に実施していくことは養護教諭本人にとってはもちろんのこと、児童生徒の健康を守るうえでも重要なことであると考えられる。今回の調査の結果から特に 20 歳代の若い世代で研修を受けづらくなっていることは採用直後に業務を行う上で困難感を感じる一つの要因となっていると考えられる。

これらのことから、特に初任者研修を終えてからの 2 年目・3 年目の研修体制を構築することが養護教諭の研修の充実を図るうえで必要であると考えられる。

（２）発表経験の有無区分による比較

これまでの研修参加・発表経験について調査した結果、官製研修や自主的な研修に参加している割合は高いが、学会や研修会で発表したり、講師を務めた経験ある割合は低かった。また、論文を投稿した経験がある割合も低かった。これらのことから、発表経験の有無による比較を行った。その結果、発表経験ありは、発表経験なしよりも参加したい研修には遠隔地でも参加しており、また、私費の研修にも積極的に参加していた。さらに、研修に参加し、人的ネットワークの構築も発表経験ありの方が発表経験なしと比較して出来ていた。

学校教育法⁴⁾により養護教諭は児童の養護をつかさどるとされている。ここで養護とは何かということが大きな命題となってくる。後藤⁵⁾は、養護教諭の研究が積み重ねられることによって、「養護とは何か」「養護教諭の独自の役割とは何か」が明確になってくる。そして、このことが養護教諭の活動の拠り所となる養護学の確立に大きく貢献すると考えら

れる」と述べている。このように一つの学問領域を理論するためには、その領域に関する研究の営みの蓄積が基盤となると考えられる。養護教諭が日々に行なう実践を研究としてまとめる「実践研究」がさまざまな学会や研究会で発表され、学術雑誌に論文としても掲載されている。また、2017年には、養護実践学会が設立され、その活動は広がりを見せている。実践研究について舘岡⁶⁾は、教師が目指すものに向けて、その時点で最良と考えられる学習環境をデザインし、より良いと思われる実践を行い、それを実践場面のデータにもとづいて振り返ることによって、次の実践をさらに良くしていこうとする一連のプロセスであり、さらに、教師自身の成長のプロセスでもあると述べられている。また、細川⁷⁾は、実践研究とは、絶えず自分の教室を振り返り、その意味を考えては新しい試みをめざし、その試みの過程で、常に自分のアイデアと他者とのインターアクションのふりいにかかけ、よりよいものにしていくという実験的かつ試行的な自己表現行為であると定義している。

今回の調査結果から発表経験のある方々は、積極的に研修や研究会に参加をし、学会等での人的ネットワークを構築していた。学会や研究会で発表を行うことによって、より深い学びにつながり、日常の養護教諭や栄養教諭の職務を行う上で有益であると考えられる。

(3) 職種による今後受けた研修のテーマの比較

今後受けた研修のテーマを職種別に比較した。その結果、養護教諭は、学校事故、相談活動、保健室経営、救急処置、性の多様性、性教育、感染症、精神障がい、児童虐待が受けた研修テーマとしてあがっていた。一方、栄養教諭は、食育、衛生管理、生産者、地域の方々とのネットワーク、アレルギー、生活習慣病を今後受けた研修テーマとしてあげていた。そして、環境衛生、栄養指導・保健指導指導案、ICTの活用、防災・災害対応については栄養教諭と養護教諭の比較において有意差はみられなかった。さらに、これまでの受けた研修についても同様の傾向がみられた。これらのことから、研修のテーマについては、各職種の専門性・役割に関係したものに興味関心が集中していることがうかがえた。

一方、本調査の自由記述に、「現状として養護教諭ばかりが発達障害やLGBTやスポーツ障害やアレルギー、熱中症の研修を受けているように見受けられる。一般教諭にも必要な知識なのに偏っています。すべての教諭に広く知識を持ってもらえるようにして欲しいです。養教と一般教諭の健康面についての知識の差が大きすぎると感じています。」との意見があった。石川⁸⁾は、養護教諭、保健体育科教諭、運動部活動を指導している一般教諭を対象に運動器疾患および運動器検診についての意識を調査した結果、一般教諭は運動器に関する知識についてほとんど持ち合わせていなかったと報告している。また、山本⁹⁾は、養護教諭を含む学校スポーツの指導者へトレーナー的知識を普及することが必要であると述べ、養護教諭と一般教員が協働して行う研修を提案している。これは運動器だけではなく、児童生徒の保健に関することは学校教育の基盤となるものであるから、児童生徒の健康について教員の間で共通の認識が持てるように、さまざまな職種が協働して行う研修を実施していくことも必要になってくると考えられる。

6. まとめ

以上より、少数職種における研修に対する意識について属性によってさまざまな違いがみられた。特に若い世代への研修体制への充実を図ることにより、養成・採用・研修の一体化

を具現化することが重要である。

引用文献

- 1)文部科学省（2015）：これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ （答申）（中教審第 184 号）http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf
- 2)文部科学省（1999）：養成と採用・研修との連携の円滑化について（第 3 次答申）4 研修の見直し 1. 研修の現状 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_shokuin_index/toushin/attach/1315400.htm
- 3)文部科学省（1997）：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について（保健体育審議会 答申）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_hoken_index/toushin/1314691.htm
- 4)文部科学省（2009）：学校保健法等の一部を改正する法律 http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/08040703/gakkouhoken.htm
- 5)後藤ひとみ（2009）：養護教諭教育の理念と養護教諭の専門性（特集 養護教諭の専門性を高める研修と研究),保健の科学, 51(8) : 514-517
- 6)館岡 洋子（2010）：「実践研究」は何をめざすか（特集 「実践教育」は何をめざすか）, 早稲田日本語教育学 : 5-7
- 7)細川英雄（2014）：日本語教育学研究 4 実践研究は何をめざすか 日本語教育における実践研究の意味と可能性,細川英雄・三代純平 編,ココ出版,
- 8)石川拓次（2018）：養護教諭および運動系部活動顧問における運動器疾患の意識についての一考察,東海学校保健研究,42(1) : 17-28
- 9)山本利春（2014）：学校スポーツにおける指導者のトレーナー的知識普及の必要性,Spoermedicine,26(7) : 13-16

3章 ヒアリング調査分析

川又 俊則

筆者は、2018-19年、三重県・滋賀県・愛知県など近県、および北海道で開催された研修会参加者に対して、ヒアリング調査を進め、現職者の方々の生の声を収集し続けた。三重県中心だが、全国各地の養護教諭約30名から得た結果を、本章では「公的研修」「個人的な学び」「キャリア別の研修内容とその成果」という3つにまとめた。2章における質問紙調査結果の分析の背景についてみていこう。

(1) 公的研修

三重県では養護教諭・栄養教諭向けの初年次向けの校外研修を毎年12回(4～12月)実施している。それ以外にも、毎年検討された内容が提示されている。

それらを通じて実践的な学びを得ている者も多い。

①都道府県教育委員会研修

- ・初年次研修、職能研修、などが実施されている。
- ・養護教諭の場合、職務・職能研修講座が年4回行われている。例えば2017年度は次の通りである。養護教諭「職務推進研修」は次のように実施された。1回目午前「虐待への対応」講義、午後「救急処置・救急体制」の講義・演習。2回目午前「学校保健活動の進め方」講義、午後小学校・中学校の養護教諭の実践報告。3回目午前「子どもの精神疾患・自殺予防」講義。午後「不登校への対応」講義・演習・協議。4回目午前「子どもの生活習慣病、成長曲線の活用」講義。午後「子どものやせ、摂食障害」講義」という形で実施された。基本的に、午前・午後と2テーマが設定されている。また、「新任校長と合同」「給食関係職員と合同」という研修もある。
- ・「6年次研と合同」「新任校長と合同」など、他の研修との組み合わせた内容もある。

②市町の教育委員会主催の研修会

- ・一般教諭向け研修会などが、夏期休業時時期に、集中して設定されている。
- ・「不登校対策」など養護教諭が参加意義ある内容もあるが、関心が向かない内容もある(三重・中勢)。
- ・もっと養護教諭が参加したくなる研修があるといい(埼玉)。
- ・市町からの依頼で「アレルギー対応」のマニュアルを作成することもある(三重・北勢)。

③地域学校保健会(養護部会)

- ・各部会(保健室経営、健康教育、健康相談活動など)に分かれ、学期に1回(例えば6・10・1月)、年度末に全体の報告会がある。夏休み研修は必要に応じた講師の話がある。
- ・不定愁訴で来た子を母が御迎えにきたことがありその後、何度も保健室に来るようなケース、肥満度の高い子に健康教室を実施し、管理栄養士・小児科医による個別指導で、1週間分の食生活、血液検査などで全体指導および個人指導をするケースなど、それぞれで共

有したい事例を持ち寄って検討を積み重ねている。

- ・勤務校の校種による違いもある。

④教員免許状更新講習（必修、選択必修、選択）

・教育の最新事情（必修）、学校を巡る近年の状況の変化（選択必修）、学校における危機管理上の課題（選択必修）、教育相談（選択必修）、学校・家庭及び地域の連携及び協働（選択必修）、英語教育（選択必修）、養護教諭対象（選択）、栄養教諭対象（選択）

教員継続のために誰もが経験する講習。久し振りに母校に来て、懐かしい指導教授の講義を受けたり、各地で働く仲間たちと交流を持つなどの機会にもなっている。

（２）個人的な学び

養護教諭として学ぶ機会は前項のような公的研修以外にも、いくつも設定されている。今回のヒアリングでも、①②③を経験している現職者は少なくなかった。しかし、④の場合、養成校教員中心で、養護教諭の参加は多くなかった。

①日本学校保健会主催（ブロック別大会、全国大会・職域（団体）別大会）

- ・東海ブロック学校保健研究大会、全国養護教諭連絡協議会研究協議会、全国学校保健・安全研究大会、全国学校保健主事研究大会など。著名人・文科省担当官などの講演あり。
- ・文科省の最新情報などを得ることができてよかった。

②全国養護教諭連絡協議会（交流会）・三重県養護教諭連絡協議会

- ・年３回。「教育相談」「保健統計」「保健学習」など幾つかのブロックに分かれて検討を進める（三重・北勢）。また、互いに困っていることなどの懇談の場ともなっている（三重・東紀州）。毎年渡り歩いている人も。広く浅くも重要なので全員でできる研修も行いたい。
- ・専門分野によるスーパーバイザーの講演会がためになった（滋賀）。

③全教養護教員部（全日本教職員組合養護教員部）

- ・全国学習交流集会（全体集会・自主講座・分科会・交流会）。
- ・健康相談などの部会。年６回など。
- ・青年部にできるだけ参加するようにしているが、ほとんど同じメンバーなので人間関係が広がらない、との声もある（三重・北勢）。

④その他の学会・研究会

- ・日本学校保健学会、日本養護教諭学会、日本教育保健学会、東海学校保健学会など。

現職者で研究発表を行っているのは修士課程などで大学院に学ぶ人など（三重・伊勢志摩、東京）。学会大会参加自体も決して多くない。現場経験を積み重ねるなかで、将来、養護教諭の養成校での教員を目指すような気持ちになると、進学（大学院修士課程）を考え、学会発表などを志すようになる（東京、愛知、岐阜、三重・北勢）

- ・学会大会ではない実践的な講習会、近隣で行われているものへ参加する人もいる（三重・中勢）。

⑤講演会などへの参加

- ・子ども支援センター所属の医師、臨床心理士などによる、虐待、発達障害など。
- ・例えば、多様な性に関する「わかったつもり」は危険で、LGBT 関連ではいまでも、年配の先生や若い男性の先生などが受け狙いの発言をしており、自分たち養護教諭が注意できるようにならねばと思う（三重・北勢）。東京や大阪で行われるものも行ける範囲で行くようにしている（三重・伊勢志摩）。
- ・いい研修内容は、校内で還流できるようにしている。

⑥研究雑誌や単行本の講読、テレビ・新聞・インターネットなどの情報収集

- ・月刊誌の『健康教室』（東山書房）、『健』（学校保健研修社）、『保健室』（本の泉社）、『心とからだの健康』（健学社）、『こころのオアシス』（健学社）などを講読する者あり。学校購入、個人購入など。
- ・保健、健康、医学関連情報を、テレビ・新聞・インターネットなどの情報収集する者は少なくない。

（３）キャリア別の研修内容（事例は、話者の勤務地）

①学生・講師時代

養成校を卒業し「養護教諭免許状」が取得できると、その時点で講師として勤務することは可能である。だが、そのとき向きあう子どもたちにとって「保健室の先生」としての「プロ」であることには、新人のベテランも変わらない。新人も次の研修を経験している。

- ・臨時採用者：年に数回の講習を実施する県もある。
- ・採用試験合格者（採用前研修）

A) 着任前に「ネット DE 研修（三重県）」などを通じて、必要な学びをしている。テーマは「社会人マナー」「教職関係（例えば、学習指導要領改訂）」「専門」など。社会人経験者なども「新たな気持ちで何か発見があるだろう」という気持ちで受講していた（三重・伊勢志摩）。

B) 教諭・養護教諭など全員参加の講話。

C) 養護教諭研修。自己紹介。同期の交流を深める。県教委研修担当者による。前年参加者が記載したアンケートを見て、着任後のイメージをつかむ（三重・伊賀）。

②初任時代（初年次研修）

法定研修がない養護教諭や栄養教諭における初年次研修は、都道府県ごとに名称も内容も異なっている。ベテラン（現在 50 歳代など）養護教諭が採用されていた時代は、現在のような制度は整っておらず、見よう見まねで勤務を始めていた（三重・北勢）ことと比較すると、現代の教員にとっては大いに役立つものとなっている。一人職としての困難に、前任者や指導者、近隣校同職に、電話などで相談することになる。その支えがあると心強く感じ、それがないと不安感でいっぱいになる（北海道）。

A) 新採研修：全体講習、養護専門講習。基礎から「救急処置」を教えていただき、知っていたつもりで身についていなかったことを反省した（三重・東紀州）。一般救命「以外」

のパターン（よくあるのは意識がない人への AED）で意識がある人の対応や頭部打撲の処置など、経験が少なく新たに学んだ。「知っている」と「使える」ことは違う（三重・中勢）。12 月まで、勤務を休んで行けるのがいい（代替で指導者がその学校にいてくれるので出やすい）。ベテランが働く保健室見学の回、ほけんだよりなどの実践例などが印象に残っている（三重・北勢）。フィジカルアセスメントなど、実践・演習系が好感。一方的な繰り返し内容の講演などでの批判もある（三重・中勢）。

- B) ベテランの指導：勤務校で指導を受けられる制度。再任用の方がなるケースも。新採研修に行っている間の保健室代替もある。そのときどきで困っていることを相談。1 学期は健診もあり、月 2 回、2 学期は月 1 回など。指導者の教員としての生き方（ベテランでも様々な資格を取得するために学ぶなど）に尊敬の念を持つ者もいる。月 2 回（1 日 4 時間）、全 15 回（12 月まで）（三重・伊勢志摩）。季節ごと（キャンプ、遠足前）の指導、健康診断前の事前指導のしかた、問題ある子の相談、初経授業の相談など。「後補充」（外部研修のときの代替）という語を知らないとの指摘を受け、「合わない」ペアとなることもある（三重・東紀州）。

③若手時代の研修

2 年目以降、教員免許状更新講習対象となる 10 年目くらいまでを、仮に若手時代とするならば、異動数回を含むこの時期の研修は、着実に個々の教員の糧となっている。

- A) 専門研修：LGBT 研修のおかげで、他の先生の LGBT の授業に対してコメントでき、子どもたちがきたときに「そうだね」と返すだけでなく、きちんと受け答えができたなどの経験談もある（愛知）。
- B) 校内研修：些細なことでもすぐ表情に出る指導者が、自分と合わなかった。「後補充」（外部の研修に行っているときに代替で養護教諭に入ること）という言葉を知らなくていきなり怒られた。学校保健委員会や環境整備などを聞いたかったが（「前の人を」とすぐ逃げる）聞けなかった（三重・中勢）。
- C) 学校保健部会（小中幼）：部長と副部長の得た情報が部会内で共有される。県・市町の教育委員会の情報が伝えられる。
- ・ 6 年次研修で指導案検討などもある。リアルな情報を得ようとしている。
 - ・ 業務に慣れ、得意分野を探し、児童生徒対応で研鑽を積んでいる時期。チームワークを学ぶ（滋賀）。
 - ・ 家庭生活（育児などの時期と重なる人も）のため、最低限しかできない場合もある。自分たちで学びあっているグループに誘われたが土曜の午後など行けないというケースも（三重・中勢）。

（4）中堅時代の研修

1 回目の教員免許状更新講習を迎える頃には、地区研修会などで後輩も増え、中堅時代とも言える時期になる。勤務校でも中核的な役割を發揮しだし、校種別や地区別の部会では、理事・副理事などの担当にあたることもある（三重・北勢、愛知）。研究テーマを決めて行った部会で発表を何度か経験することもある（東京、三重・北勢、岐阜）。転勤や校種が変わるなどの大きな変化も経験（兵庫、埼玉、東京、三重・中勢）。新たな健康課題へ取り組

む（三重・北勢、北海道、滋賀）。

・近年、食物アレルギーやエピペンの学び（三重・中勢）。緊急事態のシミュレーション研修を校内で実施提案するなども（三重・北勢、茨城、埼玉）。

（５）ベテラン時代の研修

地区部会の研修会や校内保健関係の研修などでもリーダーシップを発揮する。自らの課題解決（年齢の離れているこどもたちへの対応）はもとより、後輩たちのキャリア形成への関与も考え、提案するようになる（三重・北勢、三重・東紀州）。

過去の振り返りのなかで、現在は半日の研修も、昔は１日じっくりしていたとの話がある。

・後輩のキャリア形成への関与・提案もしている（愛知、三重・伊勢志摩）。

（６）その他

・私立学校では、独自の初任研などもある（愛知、京都、滋賀）。

・県の私学研修会などでの研修がある（三重・北勢、東京）。

・公立学校職員の研修に、参加可能な場合あり（伊勢・伊勢志摩、滋賀）。

・概して、私立学校勤務者は研修の面で苦慮しているところもある。

このような研修を分類してきた。意欲的な養護教諭の現職者たちは、個々に工夫しながら、自らの経験値を高めるべく、研修経験をしている。だが、都市部から離れた遠隔地で勤務する場合、人数の多い単数配置の学校の場合など、校外に平日に出る研修に行きにくいという意識のある者もいる。また、自らの生活環境の中で、土曜日、日曜日、祝日などの時期に設定されている、学会・研究会などへ、私費で積極的に行く者もいるが、そこまでの時間と費用をかけられないという意識の者もいる。

現代はインターネットなどを活用することで、得られる情報は無限大に近い。その意味では、それを有効活用する方法が大きな提案だろう。同時に、対面的な会話を中心にした事例検討などの研修も、実体験としてたいへん高評価であるのも確かだ。養護教諭という職務の特性から、同じ職場の同僚よりも、他の職場の同一職種の人びとと交流を深めることが、その人にとって、役立つケースは多々見られる。

その意味で、インターネットの活用と、それ以外の研修会の参加が、現時点でもっともよい研修方法だと確認できた。その研修会も、公的な研修において、かなり工夫されたテーマ設定などのものも多い。しかし、心理的分野、福祉的分野、社会学的分野、教育学的分野、医学的分野など、幅広い知見が必要とされる養護教諭においては、学会・研究会などの機会もとても役立つことが、語り手の経験から述べられていた。

このようなことから、多様な情報を集め、また、その情報を気軽に得られる状況が、個々の意欲的な養護教諭にとって効果的だと思われる。

私たち教員養成校の立場からは、情報発信を丁寧、頻繁に続けていくことが改めて重要であることを確認した調査となった。また、人と人をつなぐという作業が、一人ひとりのタイミングにおいても重要であることがわかった。

4章 e-learning 教材の作成

石川 拓次

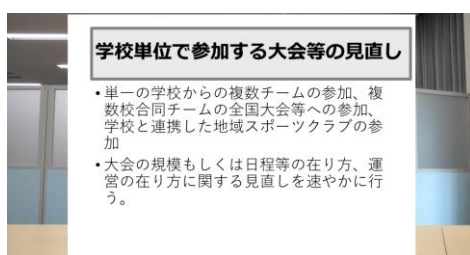
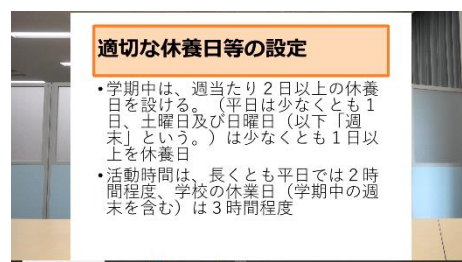
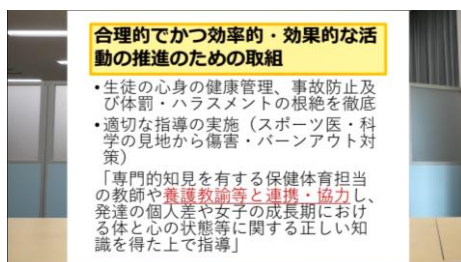
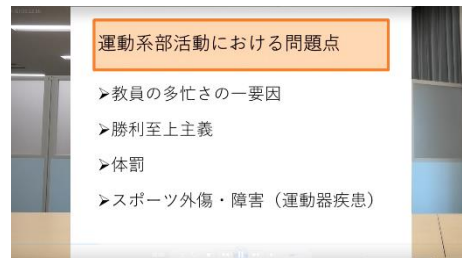
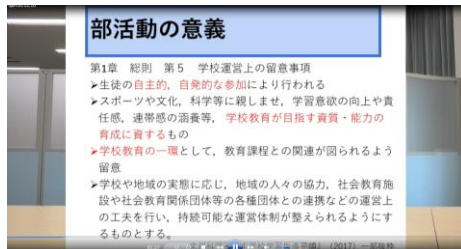
(1) 養護教諭用教材

タイトル：運動部活動ガイドラインと養護教諭の役割

講師：石川 拓次（鈴鹿大学短期大学部）

◆ 作成までの経緯

養護教諭用の e-ラーニング教材として、2018 年に出された運動部活動ガイドラインの概説し、養護教諭の運動部活動への関わりにて留意すべきことについての説明を行った。本教材の内容は本学が実施している教員免許状更新講習会の内容を一部抜粋して構成したものである。



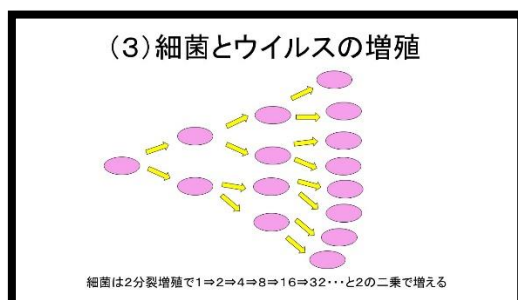
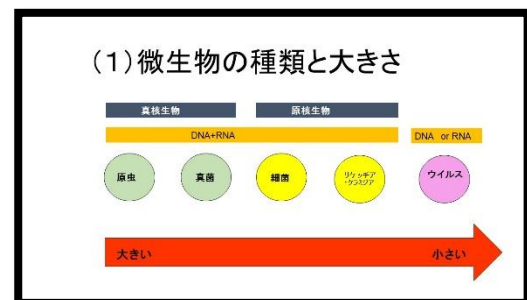
(2) 栄養教諭用教材

タイトル：食品衛生と微生物

講師：櫻井 秀樹（鈴鹿大学短期大学部）

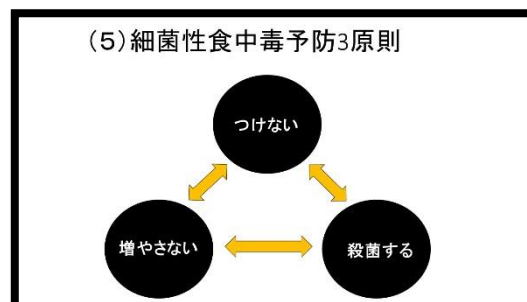
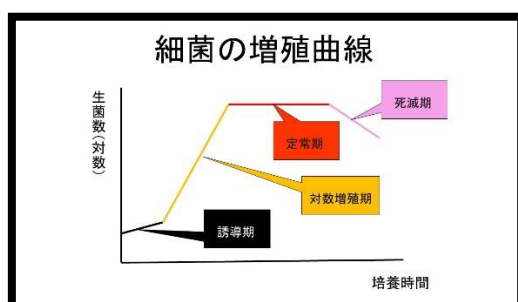
◆ 作成までの経緯

今回、三重県教育委員会と連携し、e-ラーニング教材の作成を行った。栄養教諭の分野では、栄養教諭担当の方からの要望の一つとして衛生管理についての教材の作成があった。そこで本学の食物栄養学専攻の教員である櫻井秀樹准教授が「食品衛生と微生物」のテーマで講義を行い、その様子をe-ラーニング教材としてまとめた。



細菌の増殖と酸素要求性

- (偏性)好気性: 酸素がないと増殖できない: セレウス菌
- 微好気性: 3～5%の酸素濃度でよく増殖する: カンピロバクター
- 通性嫌気性: 酸素はあってもなくても増殖できる: サルモネラ 病原性大腸菌 腸炎ビブリオ 黄色ブドウ球菌 赤痢菌 コレラ菌
- 偏性嫌気性: 酸素があると増殖できない: ウェルシュ菌 ボツリヌス菌



(3) 教職

タイトル：学校を巡る近年の状況の変化

講師：坪井 守（鈴鹿大学こども教育学部）

本教材は、本学の教員免許更新講習の内容を再構成して、e-ラーニングの教材として作成したものである。現在の学校をめぐる状況や保護者や子どもの教育についての意識から教員に求められる資質・能力について最新のデータを使ってわかりやすく概説した。

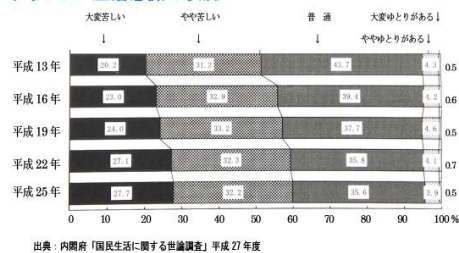


第1節 社会の生活意識や経済状況等の変化

現在の社会は、

- ❖ 科学技術の進歩、高度情報化、国際化等の進展や少子高齢化により急激に変化している。
- ❖ 国の行財政改革や雇用形態の変化、経済格差の拡大等により社会構造が大きく変化している。
- ❖ こうした社会の変化を背景にして、国や都道府県では教育改革が推進され、近年の学校を巡る状況も大きく変化した。

グラフ1-2 生活意識の状況



東京大学学部生の会計支持者の職業別割合 ～2012(平成24)年調査より

父親の職業

- ① 「管理的職業」(43.4%)
- ② 「専門的・技術的職業」(22.6%)
- ③ 「教育的職業」(12.2%)

総計 78.2%

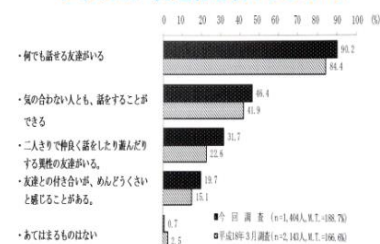
東京大学の学部生は、

- ① 「経済的に豊かな家庭」
 - ② 「文化的資本を有する家庭」
- から、進学している。

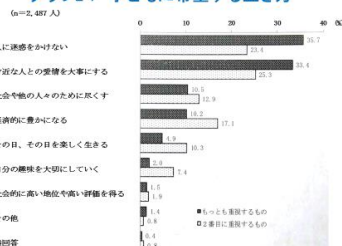
【参照】

フランスの社会学者ブルデュー、P. は、階層間格差の指標として、「**経済資本**」に加え「**文化資本**」も質量ともに大きな意味をもつとした。特に、「身体化された文化資本」(ハビトゥスとも表現され、無意識的に獲得され蓄積されたものの言い方・感じ方・振る舞い方などの身体化された傾向にこと)が、大学の進学にあたって大きな影響を及ぼす。

グラフ2-3 友達付き合いについて



グラフ2-7 子どもに希望する生き方



資料3-7 教員として求める人物像

【参考】 平成31年度「三重県公立学校教員採用選考試験実施要項」より
教員として求める人物像

- ❖ 教育に対する情熱と使命感をもつ人
 - ・子どもに対する愛情や教育者としての責任感が強く、常に子どもの人格と個性を尊重した指導ができる人
- ❖ 専門的知識・技能に基づく問題解決能力をもつ人
 - ・常に自己研鑽に努め、子どもとともに課題に取り組む創造性、積極性、行動力をもつ人
- ❖ 自立した社会人としての豊かな人間性をもつ人
 - ・優れた人権感覚と社会人としての良識に富み、組織の一員として関係者と協力して職務を果たし、子どもや保護者との間に深い信頼関係が築ける人

5章 研修情報

石川拓次・川又俊則

養護教諭には『健康教室』『健』『保健室』、栄養教諭には『季刊栄養教諭』などの研究・情報雑誌も刊行されており、多くの現職者たちはそれらを講読していた。それらには、刊行時期に近い将来の研究会・学会・セミナー等の情報が掲載されている。

それ以外に関連分野での研究会などの情報は、個人的に SNS などに登録して情報を得るのが一般的な方法である。

栄養教諭は、給食管理（衛生、栄養（献立作成））と食育給食管理という土台の上に食育があり、土台をおろそかにしないことが重要とされる。養護教諭は、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動を軸に活動している。幅広い教育・保健活動がその職務の中心であるため、現職者としての研鑽は積み続けなければならないといけない。

本研究ではこれまで、学会や自主勉強会、他職種の研修を視野に入れた幅広い研修情報を収集してきた。本報告書にそれらを収録していないが、それらを本学ウェブサイトにおいて必要に応じた情報発信をし、e ラーニング教材とともに「新たな研修スタイル」を提案したい。

以下、質問紙調査で得られた情報を掲載しておく。

おわりに

川又俊則・石川拓次

本研究は、現職養護教諭・栄養教諭の方々のご協力があったからこそまとめることができた。報告書最後において、関係各位に心より御礼申し上げたい。

研究自体は、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の教職教育センターが中心となり、こども教育学部養護教育学専攻および短期大学部専攻科健康生活学専攻（養護教諭養成）、短期大学部食物栄養学専攻（栄養教諭養成）の担当教員が共同作業を通じて推進してきた。この研究において、非常勤職員として元津市立小学校校長酒井啓子氏に事務的作業を含め、「養成・採用・研修」における調査研究および実践を行っていただいた。

これまで、主に、研修に特化した分析報告を行ってきたが、最後に、私たちは教員養成校教員として、採用段階に至る前の学生教育も省察せねばならないと述べておきたい。

私たちは、養成校教員として、教職を志す学生の教員採用試験へ向けた、集団面接・個人面接・模擬授業・論作文などの支援を、授業以外でも行っている。教員としての意識向上を図り、実践力を身に付けさせたい。教職を志す学生も多様である。個性を含め、現在の力量や持ち味に違いがある。個々にその力を伸長し、教員採用試験において求められる適切なレベルの実力を発揮するには、その準備として、基礎学力向上のみならず、試験対策的な準備も必要となる。

各自に合わせ、個人演習を支援する時間が確保されると一層成果につながる。また、身近な時事問題や教育課題に関心を持たせることで、面接試験の受け答えや討論での意見論述の幅が広がる。学生たちは、意欲的で向学心旺盛な者も少なくない。その意欲を後退させることなく学習につなげ、実力をつけさせたい。

大学として、個人では学習できない集団討論の演習などを提供し、どのタイミングで自分が発言するか、他の人の発言を受けてどのようにつなげていくか、沈黙が続いた場合の対応など、演習を通して実力をつけさせたい。模擬授業も指導し、採用試験という「授業」であることを認識し、面接官の視点を踏まえた授業も引き続き、演習すべきであろう。

このような教員採用試験受験生がやがて本学を卒業し、教員採用試験を突破した学生たちは、教員として採用・研修へと向かう。

今回実施した質問紙調査の結果から、本学はまだリカレント教育の部分で不十分だったと反省した。本研究を通じ、現職者へさらなる最新の教育事情やそれぞれの専門分野での新たな課題と一緒に学ぶような機会を提供し続けたい。e-ラーニング、研修会などの情報提供を通じて、「養成・採用・研修の一体化」となるのである。本研究を基礎に、さらなる展開を目指したい。

本研究は、申請の段階から、三重県教育委員会事務局研修推進課の方々に、情報交換や研究推進において報告会を行い、そのなかで意見交換をさせていただいた。質問紙調査の質問文・選択肢、あるいはe-ラーニング教材の作成、報告書作成において、適切なお助言も多数いただいた。ここに記して深く御礼申し上げたい。

今回を契機に、本学は、県教育委員会および市町の教育委員会の方々と、多くの情報を交換し、現職教員の方々によりよい研修を提供し続けたい。

紹介したい研修会・テーマ・講師

テーマ	研修の内容	講師名	役職	所属	主催・研修会名
アレルギー					
アレルギー		石原 慎		藤田保健衛生大学	
アレルギー		岡本 陽		愛知教育大学	
アレルギー		長尾 みづほ	医師 アレルギー-疾患治療開発研究室長	三重病院	
アレルギー		中川 先生	薬剤師		
アレルギー		林 典子	管理栄養士	相模原病院臨床研究センター	
食物アレルギーへの適切な対応		高橋 惺一		調布市教育委員会教育部	
学校給食における食物アレルギー対応について		伊藤 浩明	医師	あいち小児医療総合センター	
食物アレルギーの基礎知識と最新の治療について		今井 孝成	医師	昭和大学医学部	
学校におけるアレルギー-疾患に対する普及啓発講習会	アレルギー＝初				
アレルギー					アレルギー-大学
アレルギー	アレルギーの基本、アナフィラキシーのことなど学ぶことがたくさんあった				
アレルギー-講習会					
アレルギー-疾患に対する普及啓発講習会					
アレルギー-の最新情報			アレルギー-専門医		文部科学省
アレルギー-生徒への対応や救急処置について			主任養護教諭		期限付任用等養護教諭研修会
食物アレルギー	アレルギー-の				
衛生管理					
衛生管理研修					
衛生管理研修					
給食管理					文部科学省
学校事故・学校安全					
ヒヤリハット事例					
学校事故					
学校安全	事例検討や実演講習は特に勉強になる	池田小学校事件の 関係者の方			
学校事故について			弁護士		
学校事故について	どんなケースが実際に問われるか、日常 気をつけておくことなど		弁護士		
リスクマネジメントに関する内容	具体的な事例をもとに保護者対応を学 んだ				
ヒアリハット事例から学校事故について考える研修					
学校における危機管理の対応					
危機管理(池田小学校事件)	グループワーク				
学校事故	教員への対応事例や訴訟判例について の講話		弁護士		
学校環境衛生					
環境衛生			薬剤師		
感染症					
感染症について			医師	三重病院	
学校感染症					
感染症対策	嘔吐物処理実習も含まれていた		薬剤師		初任者研修
救急処置					
心肺蘇生法					
救急処置について		北垣 毅	院長	たけしファミリークリニック	
救急処置			医師・教授		
頭部外傷のフィジカルアセスメント	頭部外傷のフィジカルアセスメントの実 習、講義				初任者研修
フィジカルアセスメント		中島 敦子	教授	園田学園女子大学人間科学部	
頭部外傷時の救急対応 フィジカルアセスメントを中心に					6年次研修
頭部外傷についての救急処置					
救急法					初任者研修
応急処置	具体的で実践できる内容				
フィジカルアセスメント					

テーマ	研修の内容	講師名	役職	所属	主催・研修会名
健康教育	養護教諭が出来るトリアージについて				
	救急処置	保健室での養護診断			
	脳、眼科、耳鼻科の病気と症例 危険なサイン				
	てんかん講座				
	スポーツ外傷	石川 拓次	准教授	鈴鹿大学短期大学部	日本てんかん協会
	スポーツ外傷	瀬戸口 秀正	医師	みどりクリニック	
	フィジカルアセスメント				
	保健室での見立てのコツ 総合診療科的アプローチとフィジカルアセスメントで危険な疾患を見抜く	錦野 紀好	特任教授	千葉大学医学部附属病院総合診療科 教育研修センター	
	救急処置	整形外科	医師		
	救急処置	眼科	医師		健康増進ブラネット 学校事故対応講習会 学校事故対応講習会
健康診断	内科的なフィジカルアセスメント				
	ASUKAモデル(DVD)				
	子どもの命を守るために ～ASUKAモデル	桐淵 博	教授	埼玉大学	
	基本的な応急処置				
	フィジカルアセスメント				5年研
	トリアージ	鈴木 健介	助教	日本体育大学	
	救急体制・救急処置	中村 美幸	養護教諭	津市立千里ヶ丘小学校	常勤講師・養護助教諭研修
	見えにくい子どもへのアセスメント	中野 泰志	教授	慶応義塾大学	全国特別支援学校 キャリアアップ研修会
	救急処置および救急搬送		消防隊員		
	健康教育 触発・追求型の健康教育	近藤 真庸			
災害・防災対応	色覚特性のある児童・生徒の理解と支援、 聞こえの公開講座	豊田 浩司	医師	一志眼科	みえ聾学校 カラーユニバーサルデザイン普及 ワークショップ 職務・職能研修
	色覚異常について				
	色の見え方		医師		
	災害・防災対応		医師・教授		
	防災・ 災害から学ぶ災害後のこころのケア			静岡大学	
	防災について、災害時の養護教諭の役割				
	3.11の体験と養教としての取組		養護教諭	岩手県立石巻高等学校	
	防災・災害対策				
	防災教育			名古屋大学防災研究機関	
	災害時食事				
指導案の作成	保健指導・教育	上條 晴夫	教授	東北福祉大学	
	保健学習の進め方				
	授業作り				
	保健指導・保健学習の実践発表 指導案の書き方		養護教諭		
	食に関する指導の授業研修				
	指導案作りに関する講習会				
児童虐待	虐待				
	児童虐待				健康教育指導者養成研修
	児童虐待	西澤 哲			
	食育 お弁当の日	高橋 先生 竹下 和男	弁当の日創始者	群馬大学	

テーマ	研修の内容	講師名	役職	所属	主催・研修会名
食育について		清久	食育調査官		
食育における見える化(データで示す食育)					
子どもの食事指導支援プログラム		村田 光範・由田 克也			
魚について学ぶ		神谷 友成・早武 忠利			
食育授業の見学・討議					
ききだしなどの体験研修					
味覚					
朝ごはんの利点	スポーツ栄養との関わり				
食形態について					
EERを使った摂取エネルギー算出についての講習会					
食に対する苦手意識	特別支援学校に通う子ども達が食べ物に対してどのような苦手意識があるかを話してくれた				
生活習慣・生活習慣病					
歯科保健について					
学力・体力・気力の向上は生活習慣の立て直しから		小澤 治夫	教授	静岡産業大学	三重県学校保健安全研究会
睡眠		山下 晋	教授	岡崎女子大学	
肥満		貝沼 医師	医師	三重病院	
減塩のコツ			社員	味の素	
性教育・いのちの教育					
性教育		渡會 睦子	教授	東京医療保健大学	
命の尊さ、生きることの素晴らしさ		水谷 修			
性教育		北村 邦夫	理事長	一般社団法人日本家族計画協会	
性教育		岩室 紳也	医師	ヘルスプロモーション推進センター	新規採用養護教諭研修
HIVについて、				名古屋医療センター	
性に関する講話		丹羽 咲江	医師	関立レディスクリニック	
性感染症について		村上 啓雄	医師	岐阜大学医学部附属病院	
命の教育の進め方		近藤 卓			
性犯罪		岩室 紳也	医師		
性教育					ハートブレイク
性教育		近藤 真庸			
性教育		日高 康晴		宝塚大学	
性教育		川村 真奈美			
性教育		松岡 典子			
性の教育(LGBT含む)					
思春期に対応する性について					
性に関すること		岩室 紳也	医師		
いのちの教育			助産師		
AIDSの感染経路や予防について					
性に関する指導のあり方		黒瀬 清隆	所長	ハートブレイク思春期研究所	
生きることの意味		ドリアン助川	作家		
院内学級 赤鼻の先生		副島 賢和	教諭	昭和大学病院	全国特別支援学校 キャリアアップ研修会
性教育					
精神障がい					
精神疾患について					
こころの健康					
精神疾患について、					
愛着障害		米澤 好史	教授	和歌山大学教育学部	
不登校の子どもの対応について、		志村 浩二	臨床心理士	亀山市子ども総合支援室室長	
いじめ・不登校・ひきこもり		安川 雅史		全国webカウンセリング協会	
愛着障害	愛着障害が現れてくる子どもの行動や心理面が発達障害の子とどのような現れ方をすることがあり、その見極め方や対処方法について学ぶ				
養護教諭自身の自己理解を深めるメンタル研修会					
自殺予防					市の保健所主催

テーマ	研修の内容	講師名	役職	所属	主催・研修会名
自殺対策に関する研修会					三重県こころの健康センター
こころの問題		園田 雅春			
こころの問題		酒井 隆			
摂食障害		鈴木 由紀	医師	三重病院	
自殺予防に関する研修					
自傷行為		松本			
思春期やせ症(拒食症)		井口 敏之	医師	星ヶ丘マタニティ病院 小児科	
自殺予防教育プログラム		勝又 陽太郎			若年層自殺対策研修
子どものメンタルヘルスとその対応		堀 英太郎			学校保健講座
小児精神障がい					
愛着障がい					
性の多様性・LGBT					
LGBTIに関する研修					
LGBT		三輪 真裕美	教頭	四日市市立大矢知興譲小学校	
LGBT講習会		山口 颯一		一般社団法人ELLY	
LGBT当事者の方の講演会					
LGBT	実際にLGBTの方とお会いして学びを深めた				
LGBT					東海学園大学
LGBT					
セクシャルマイリティについて		日高 庸晴		宝塚大学	
LGBTなど性の多様性					
LGBT理解	LGBT当事者の話もあり	松尾 かずな	医師	名古屋大学病院泌尿器科	
LGBT	LGBT当事者からの話				
健康相談活動・教育相談					
教育相談					
カウンセリング				カウンセリング機関の代表者の方	
教育相談活動(校内連携)					
健康相談の進め方		徳山 美智子		大阪女子短大	
教育相談		岩宮 恵子		島根大学人間科学部	教育相談ベネジック研修
教育相談基礎講座					
教育相談のエッセンス～事例を通して～		桑原 知子	教授	京都大学大学院	
相談活動			スクールカウンセラー		
教育相談および特別支援教育について	学校の教育相談と心理臨床の違いについて				
教育相談					
地域の方とネットワーク					
教師に求められる人間関係づくり		諸富 祥彦	教授	明治大学	
特別支援教育					
発達障害について					
発達障害理解					
救急法やアレルギー	普通学級にいる特別な支援が必要な児童への対応等実践的な内容のもの				
自閉スペクトラム症のある人の成人期の暮らし方		吉川 徹	医師	愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科	
発達障害について					居住地域の市町村主催
肢体不自由児との関わり方	車イス・コミュニケーション 姿勢保持 体交法				
医療的ケア	発達障害は幼児期の虐待に関係があると言われている				
発達障害					
特別支援 発達障害について		小栗 正幸			
特別支援					
障がい児への性教育					
特別支援 LD		LDセンターの先生			
特別支援教育		志村 浩二	臨床心理士	亀山市子ども総合支援室室長	
特別支援における性に関することについて					

テーマ	研修の内容	講師名	役職	所属	主催・研修会名
保健室経営	知的障害のある児童生徒への性に関する指導	船木 雄太郎	教諭	大阪府立刀根山支援学校	
	障害のある子どもの食事に関する研修	藤井 葉子	医師	広島市こども療育センター	
	保健室経営				
	保健室マネジメント				健康教育指導者養成研修
	養護教諭の職務について				
その他	養護教諭	三木 とみ子		女子栄養大学	全国特別支援学校 キャリアアップ研修会
	保健室コーチャング	桑原 朱美			
	QUの結果の読み取りと活用方法	太田 文彦		津市立豊里中学校	
	ハイパーQUの見方				
	ソーシャルワーカーのお話	小西 好彦			
その他	アンガーマネジメント				
	がん教育				
	がん教育	小野 章史			
	栄養成分の構造機能、代謝				
	思いが伝わる伝え方				
	話し方・接し方等のマナー研修		元アナウンサー 代表取締役		
	スマートプレゼン	新名 史典		株式会社 Smart Presen	
	ペップトーク				
	人との接し方				
	行動変容につながる指導	北折 一	ディレクター	元NHK	
	ソーシャルスキルトレーニング				
	学力について				
	現場に関わるドクター	北垣 毅	医師	千葉大学医学部	全国特別支援学校 キャリアアップ研修会
	コーチャングについて				
	少年犯罪に関わっている精神科・カウンセラーの事例				
その他	犯罪被害者のカウンセリング	仲 律子	教授	鈴鹿大学こども教育学部	全国特別支援学校 キャリアアップ研修会
	先輩養護教諭からの講演				
	涙活				
	ブリーフセラピー				ブリーフセラピー研修会
	教員としての子ども観、教育観等についての省察	古谷 恵太	准教授	東京学芸大学	
	子育て	明橋 大二	医師(心療内科)		
	知的能力の個人差とワーキングメモリ	関口貴 裕	准教授	東京学芸大学	
	ストレスマネジメント				
	いのちの大切さ	天野 篤	医師	順天堂大学医学部院長	
	人権	杉原 幸子 (杉原千畝さんの妻)			
	てんかん				てんかん協会(波の会)の 研修会(セミナー)
	ストレスチェック				ストレスチェック協会の セミナー
	色覚				CUD普及ワークショップ
	サービス	ディズニールランドの 勤務経験者		NPO人にやさしい色づかいをすすめる会	夏休み健康作りセミナー
	ルポ保健室	秋山 千佳	作家	ルポ保健室の著者 社会福祉法人 小羊学園	小児摂食嚥下勉強会
	摂食障害	浅野 一恵	医務部長	重症心身障害児施設つばさ静岡	

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、享栄学園 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部が実施した平成30年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

文部科学省 教員の養成・採用・研修の一体的改革事業
少数職種における効果的な研修の推進に関する調査報告書

発 行 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部

発 行 日 2019（平成31）年3月20日

印刷・製本 合資会社 黒川印刷

〒514-0008 三重県津市上浜町2丁目11

☎ 059-226-4877 FAX 059-226-4889
